

2 日米通商航海条約廢棄通告

1344

昭和14年1月5日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

侵略國を援助するような行動は慎むべきとし
て中立法の修正に言及した米國大統領年次教
書につき報告

ワシントン 1月5日後発
本省 1月5日後着

第一一號

本⁽¹⁾四日米國議會ニ對スル大統領教書ノ要旨次ノ如シ
全世界ヲ捲込マントセル戰爭ノ危險ハ回避セラレタルモ世
界ノ平和ハ依然トシテ危殆ニ瀕セリ米國ハ西半球ノ領土、
平和及理想ヲ擁護スルノ用意アリ左レト右ハ決シテ米大陸
諸國ヲ世界ノ他ノ國々ト隔絶セントスルニアラス米大陸國
ノ一トシテ米國ハ世界平和ノ理想達成ニ其ノ力ヲ吝マサル
モノナリ米國ハ侵略ノ根絶、軍備競争ノ中止、貿易ノ回復
ヲ欲スルモノナリ左レト一強國タリトモ紛争ノ平和的解決

ニ同意セサル限り我々ハ單ニ平和ヲ希求スルノミニテハ國
家ノ安全ヲ保障シ得ス國防力ノ充實コソ安全保障ノ唯一ノ
手段ナリ特ニ最近ノ武器ノ進歩ハ右ノ必要ヲ一層増大セリ
我々ハ世界ノ如何ナル部分ニ於ケル無警察狀態ヲモ傍觀ス
ルコト能ハス又我々ノ姉妹國ニ對スル侵略ヲ見逃スコト能
ハス左レト右侵略行為ニ對スル干涉ハ平和的ニ爲サルヘキ
ナリ尤モ單ナル言葉ノミニテハ何等效果ナカルヘキモ戦争
ノミカ侵略行為抑壓ノ手段ニアラス戦争ニハアラサルモ戰
争ニ近キ方法ニシテ言葉ニ依ル抗議以上ニ有效ナル方法ア
リ少クトモ我々ハ侵略國ヲ援助若ハ鼓舞スル如キ行動ハ慎
マサルヘカラス我々ハ中立關係ヲ慎重ニ立法セントスレハ
中立法ハ侵略國ニ援助ヲ與ヘ被侵略國ニハ之ヲ拒ムカ如キ
不公平ナル作用ヲ爲ス惧アルコトヲ知レリ我々ハ今後スル
コトナキ様スヘキナリ我々ハ常ニ用意アル國防コソ外國ヨ
リノ侵略ノ危險ヲ著シク減少スルモノナルヲ知ル充分ナル
國防ニハ三ツノ要素アリ一ハ直接外敵ノ侵入ヲ防禦スル軍

備ニシテ其ノ二ハ戦争遂行ニ必要ナル工業ノ整備ナリ其ノ三八國民ノ精神的團結ナリ之ナクシテハ如何ニ完全ナル軍備工業組織ヲ有スルモ敗北ノ憂目ヲ見ルヘシ獨裁國ニ於テハ統制サレタル國民ノ全能力ヲ支配シ得ヘキモ「デモクラシー」國ニ於テハ國民ノ團結力ハ國民力何ヲ爲スヘキカヲ知り且各自カ成功ノ分前ヲ獲得シ得ル確信ヲ有スル場合ニ於テノミ得ラルルモノナリ從テ我國ノ社會的及經濟的改革ハ軍備同様國防ノ基礎ヲ爲スモノナリ

(¹³) (次テ教書ハ内政問題ニ移リ先ツ過去六年間ニ於ケル「ニューデイル」ノ業績ヲ概括シタル後) 過去六年間二種々ノ改革ヲ爲セルモ是等ハ獨裁政治ニ依ルコトナシニ行ハレタリ「ニューデイル」諸法令中ニハ今後修正ヲ要スルモノアリ又是等法令ヲ正シク適用スル爲ニハ行政機構ノ改革ヲ要ス今日最モ重要ナルハ資本ト労働トヲ協調セシムルコトニシテ獨裁政治ハ強力ニ依リ之ヲ行ヒ少クトモ今ノ所成功セリ我々ハ一方ニ於テ「デモクラシー」ノ諸制度ヲ維持シツツ之ト同様ノ成功ヲ收メントスルモノナリ之カ爲ニハ今後モ政府ノ支出ヲ削減スルコトナク政府ノ支出ニ依リ資本及労働ヲ各各活動セシメ延イテ商業活動ヲ盛ニシ現在六

百億弗ノ國民收入ヲ八百億弗ニ迄増加スルコトニ依リ失業者ヲ減少セシメントスルモノナリ獨裁政治ニ依ルトキハ比較的容易ニ右ノ目的ヲ達シ得ヘキモ同時ニ自由民權ハ完全ニ奪ヒ去ラルヘシ外國ニ於ケル最近ノ諸事件ハ米國民ニ對シ國內ノ危機ハ國外ヨリノ危機ヨリ惧ルルニ足ラサルコトヲ示セリ而シテ若シ失業及不活動資本ノ問題解決力我々ノ自由ヲ保持スル代償ナリトセハ何人ト雖吾人ノ政策ニ反對セサルヘシ

紐育へ郵送セリ

1345

昭和14年1月19日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米国は日中紛争に関し中立法に背馳した行政
措置を採りつつあり経済制裁関連法案の採択
など議会推移を注視すべき旨意見具申

ワシントン 1月19日後発

本省 1月20日後着

第五九號

(¹⁴) 目下米國議會ハ失業救済、軍備擴張關係ノ問題ニテ賑ヒ

未タ中立法修正等對外關係ノ議事少キ處御承知ノ通り「ローズベルト」大統領ハ議會ニ對スル年次敎書(往電第一一號)ニ於テ明カニ中立法ノ修正ヲ慫慂スルト同時ニ所謂侵略國ニ對シ戰爭ニ近キ經濟金融上ノ制裁手段ヲ講スル必要ヲ強調シタルカ申ス迄モナク現行中立法ハ外國内又ハ外國間ノ紛爭ニ捲込マレサラントスル孤立論者ノ主張ニ基キ立法セラレタルモノニシテ何レカノ一方ニ制裁ヲ加フヘシトスル思想トハ相容レサル次第ニ現ニ紐育「ヘラルド、トリビュン」華府支局長「ワーナー」モ最近ノ通信中ニ於テ戰爭ニ捲込マルヘカラストスル中立法(大統領ハ之ヲ裁可セリト附言ス)ノ精神ト大統領ノ年次報告中ニ述フル所トハ平仄カ合ハスト指摘シタリ現在迄ノ諸情報ヲ綜合スルニ中立法ノ武器類禁輸等ノ規程ヲ何レカノ一方ノミニ適用シ得ル如ク修正スルコトハ名ノミ中立法ニテ實ハ非中立法タラシムルモノニテ今尙孤立論者ノ勢力侮リ難キ現狀ニ於テ之カ實現ハ困難ノ模様ナリ

他面米政府ハ既ニ行政處置ニ依リ我方ニ對シテノミ飛行機等ノ輸出ヲ「デイスカレイジ」シ支那ニ對シ信用供與

等ヲ行ヒ事實上中立法ノ精神ニ背馳スル措置カ執ラレ居ル次第ニシテ旁今後我方トシテ警戒ヲ要スルハ(一)米政府當局カ關稅法等ノ現行法令ノ範圍ニ於テ種々本邦品ノ輸入ヲ困難ナラシムルコト(二)米議會カ例ヘハ條約違反國又ハ非戰鬪員ヲ爆撃スル國ニ對シ武器其ノ他ノ輸出ヲ禁止スヘシトスル共同決議案ヲ採擇スルコトナキヤノ點ニ在リト存セラル

三、現在迄議會ニ提出セラレ居ル中立法又ハ軍需品禁輸關係法案若クハ共同決議案ハ上院ニ中立法廢止法案、戰爭並ニ徵兵ヲ人民投票ニ依リ決スヘシトスル憲法修正決議案、武器彈藥類ノ輸出ヲ一般的ニ禁止スヘシトスル法案、屑鐵保存(禁輸)法案、下院ニ中立法廢止法案、戰爭及徵兵ヲ人民投票ニ依リ決スヘシトノ憲法修正決議案、不戰條約強化決議案、軍需品ヲ交戰國ノ何レニモ禁輸スヘシトスル決議案、商務省ノ許可ヲ受クルニアラサレハ銃鐵、屑鐵及屑鋼ヲ輸出スヘカラストスル法案、屑鐵及銃鐵ノ禁輸決議案、日本軍隊カ支那領土占領中對日通商ヲ遮斷スヘシトスル決議案、ニシテ例ニ依リ大部分ハ立消トナルモノト認メラル尙對日軍需品禁輸方ノ請願上院ヘ三通、

下院へ七通出テ居レリ

英へ轉電シ紐育へ暗送セリ

英ヨリ在歐各大使へ轉電アリタシ

1346

昭和14年1月24日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

有田外相の議會演説に関する報道振り報告

ワシントン 1月24日後発

本 省 1月25日前着

第七二號

二十一日議會ニ於ケル貴大臣ノ外交演説ハ東京A Pトシテ當方面有力新聞ニ一齊ニ掲載セラレタル處茲數日間ノ新聞ニ就キ輿論ノ反響ヲ見ルニ社説其ノ他ノ記事ニ於テ批評ヲ加ヘタルモノ殆トナク比較的平靜ナル調子ヲ持シ居レルハ右演説カ東亞ノ新秩序建設ノ人類一般福祉ニ貢獻シ何レノ國ノ利益ニモ合致スヘキヲ説キ特ニ事情ノ許ス限り各種懸案解決ヲ促進シ居ル旨強調シ何等舊臘三十一日ノ米國「ノート」等ニ觸レ論議ノ種ヲ與フルカ如キコトナカリシ爲カト認メラル

英へ轉電シ紐育、桑港へ暗送セリ

編 注 本書第27文書。

1347

昭和14年2月16日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日中兩國への屑鉄等禁輸法案に関する下院照会に対し米国國務長官が中立政策に関連するとの理由で審議延期を回答について

ワシントン 2月16日後発

本 省 2月17日前着

第一三〇號

十五日紐育「タイムス」華府通信ハ最近下院外交委員長「マクレイ、ノルツ」ハ紐育州選出共和黨議員「ハミルトン、フィツシュ」提出ニカカル銑鐵、屑鐵、屑鋼ヲ日支兩國ニ禁輸方ノ法案ニ關シ「ハル」國務長官ノ意嚮ヲ照會シタル處同長官ヨリ本件法案ハ米國ノ中立政策ニ關聯スルモノナルヲ以テ之カ審議ハ議會カ中立政策ヲ一般のニ考慮スルヲ都合好シト認ムル時期迄延期スルコト然ルヘシト回答

セル旨報シ居レリ
紐育へ郵送セリ

1348

昭和14年 3月24日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

現状では屑鉄および銑鉄の禁輸法案は米国議
会で成立の見込みなき旨報告

ワシントン 3月24日後発
本省 3月25日後着

第二五二號(至急)

貴電第一一二號ニ關シ(屑鐵及銑鐵ノ對日輸出禁止乃至制
限ニ關スル件)

目下上院陸軍委員會ニ一月十六日「シユエレンバツハ」提
出ノ屑鋼鐵ノ國內資源保存法案、下院外交委員會ニ一月三
日「クロフォード」提出ノ屑鐵銑鐵輸出禁止ニ關スル共同
決議案、同日同議員提出ノ屑鐵銑鐵並ニ屑鋼輸出禁止法案
(往電第五九號後段御參照)及一月三十日「フィツシュ」提
出ノ日本及支那ニ屑鐵銑鐵及屑鋼輸出ヲ禁止スル法案(往
電第一三〇號)附託サレ居ルモ何レモ未タ審議セラルルニ

至ラス又近キ將來ニ審議開始ノ模様全然ナシ(往電第一三
〇號「ハル」長官ノ言明ハ上下兩院ニ依リ受容セラレ居ル
様子ナリ)尙軍需及民需産業ニ不可缺ナル資財貯蓄法案上
下兩院ニ夫々提出セラレ居ルモ右ハ必要資材ヲ購入貯藏ス
ル權限ヲ關係當局ニ附與スルヲ目的トシ禁輸又ハ制限ヲ規
定シ居ラス上院陸軍委員會ノ同案審議報告ニ附屬セル陸海
軍軍需品委員會代表ノ覺書中ニハ各種資源ヲ其ノ必要ノ程
度ニ應ジ strategic, critical, essential ノ三種ニ分チ鐵及鋼
ハ戰時ニ於テモ獲得困難ナラサル essential materials ノ部
類ニ入レ居レリ之ヲ要スルニ屑鐵銑鐵ノ對本邦輸出制限乃
至禁止ニ關スル立法ハ日米關係更ニ惡化セサル限り成立ノ
見込少キモノト觀測セラル(中立法修正案ニ關シテハ往電
第二三六號及第二五一號ニテ御承知アリタシ)
紐育へ暗送セリ

1349

昭和14年 3月25日

在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米国の対日感情悪化およびその改善策につき

意見具申

付記 昭和十四年二月七日、東亜局作成

「對米工作要綱案」

ワシントン 3月25日後発

本省 3月26日後着

第二五六號(極秘)

日米關係ノ現狀竝ニ之カ打開ニ付本使着任來朝野各方面ト
ノ接觸ニ依リ得タル所感ヲ綜合シ左ニ大體ノ卑見ヲ申進ス
米國ノ對日惡感情ハ相當複雑深刻ニシテ一時の衝動乃至誤
解ニ基クモノト言フコトヲ得ス從テ所謂宣傳啓發ニ依リ急
速ニ之ヲ好轉セシムルカ如キハ到底望ムヘクモアラス須ク
右惡感情ノ根源ヲ究メテ組織的對策ヲ講シ逐次之ヲ實行ス
ルコトニ依リ初メテ局面打開ヲ期シ得ヘキモノナルヲ信ス
一、對日惡感情ノ原因ハ(イ)日本ノ對支行動ヲ以テ侵略ト爲シ
テ之ヲ憎ミ且弱者ニ同情セントスル感情(ロ)米政府カ日本
ノ行動ヲ非難シ抑制セント試ミタルニ拘ラス日本ハ之ヲ
無視シ着々既定ノ計畫ヲ進メツツアリトノ不滿(ハ)「パナ
イ」號事件、南京攻略當時ノ出來事、非戦闘員爆撃ニ對
スル憤激等主トシテ一般民衆ノ感情の方面ニ基ク所多キ
モ最近政府當局竝ニ民間知識階級ノ間ニ重大關心トナリ

ツツアルハ(ニ)在支權益ノ不安殊ニ日本ノ唱道スル東亞新
秩序建設ハ其ノ實日本ノ獨占歐米ノ閉出シニ外ナラスト
ノ疑懼竝ニ(ホ)日獨伊樞軸ハ結局「デモクラシー」諸國ニ
對抗スルモノニシテ軍事同盟說實現セハ米國ニ取リテモ
直接脅威タルヘシトノ懸念ナリ之ヲ要スルニ米國民ノ對
日惡感ハ日支事變ト日獨伊結合ニ胚胎スルモノト言フヲ
得ヘシ

二、次ニ右米國民ノ對日感情ハ現在如何ナル形ニ於テ現ハレ
ツツアルカラ見ルニ表面ニ於テ幾分沈靜ノ感アリ例ヘハ
新聞ノ第一面社説等ニ現ハルル反日記事ハ比較的少キニ
滿洲事變當時ノ如ク公然日本ヲ辯護スル言説ハ殆ト之ヲ
見ルコト無ク所謂壓倒的ノ反日空氣ト言フモ過言ニ非ス
社交其ノ他個人的接觸ニ當ツテハ露骨ニ不快ヲ示ササル
モ潛在的ニ相當深刻ナルモノアルヲ感知ス唯昨秋以來獨
逸ノ中歐進出猶太人排斥ニ依リ米國民ノ反獨感情高潮シ
之カ爲右對日感情ハ幾分陰ニ隱レタルノ感アルヲ認ム而
シテ之カ表面化スル場合ニ或ハ飛行機其ノ他ノ對日輸出
阻止トナリ或ハ大統領敎書中ノ Shot of war ノ對抗策唱
道中立法修正ノ示唆等トナリ爾來種々ノ法案議會ニ提出

サレ居ルコト御承知ノ通りニシテ民間ニアリテモ或ハ絹靴下其ノ他日本品不買屑鐵禁輸運動等トナリ或ハ non-participation in Japanese aggression 運動トナリ居リ此ノ種民間運動ハ最近稍擴カリツツアルヤニ觀測セラル

三、⁽³⁾然シ乍ラ政府ノ對日策一面條約尊重其ノ他米國ノ主張ヲ維持シ日本ヲ牽制セントスルト共ニ他面對內政策上國防充實ノ目的ニ利用セントスルモノト見ルヘク此ノ限度ニ於テハ黨派ノ如何ニ拘ラス國民一般ノ支持ヲ受ケ居ルモノト認メラル勿論孤立論者ノ勢力ハ依然トシテ底力アリ議會竝ニ民間ニ在リテ常ニ政府ノ行過キヲ抑制シツツアリ且國民一般トシテハ戰爭反對ノ念極メテ強キモ萬一歐洲ニ戰爭起リ英佛參加スル場合ニハ必スヤ米ハ英佛ニ加擔スヘク此ノ場合米國民ハ舉ツテ政府ヲ支持スヘシ之日獨伊同盟說ニ關シ深キ關心存スル所以ナリ(本年一月末大統領ハ上下兩院外交委員トノ祕密協議會ニ於テ米國ノ國防線ハ佛蘭西ニ在リト言明セリトテ物議ヲ醸シタルカ右言明ニ對シ「フーバー」前大統領モ同感ナリト洩セル旨傳ヘラル)

四、今後米政府ノ對日措置力如何ナル程度迄及フヘキヤハ我

方ノ出方竝ニ歐洲ノ形勢ニ依リ左右セラルル所多カルヘキモ此ノ上新事件發生セサル限り日本ノミニ對スル屑鐵石油等ノ禁輸、日本品ノ輸入阻止等ニ迄至ル懸念少ナカルヘク殊ニ我方ニ取り最モ大切ナル金融上ノ便益ヲ拒否スルカ如キハ容易ニ行ハレサルヘシト思考ス(二月十七日大藏長官カ本使ニ對シ日本ヨリノ現送金ニ對スル米當局ノ取扱振ハ大體満足ナルヘシト語り今後モ現在ノ取扱ニ變リナキ意嚮ナルヤノ印象ヲ得タリ今日迄米側カ好意的便宜ヲ供シ居ル事ハ御承知ノ通りナリ)尤モ民間ニ於テモ當分對日借款又ハ大口「クレヂット」ノ見込薄ナルコトハ既報ノ通り(往電第二二〇號中「ラモン」談)ナルカ唯企業方面ニ於テハ目立タサル方法ニ依リ米國側資金及特許權等ノ利用ヲ爲シ得ル餘地アルハ先般成立セル東京電氣トGE及RCATト提携ニ見テモ明カナリ

五、⁽⁴⁾敍上對日感情ノ原因竝ニ之ヲ左右スル諸般ノ事情ニ顧ミ日米關係ノ調整ヲ考察スルニ素ヨリ支那事變ノ終局、日支和平ノ成立コソ根本問題ニシテ本使歴訪ノ際「ヒューズ」大審院長ヲ始め大藏長官、陸軍長官、司法長官等ヨリ事變終局ノ速カナランコトヲ希望シ異口同音ニ和平ノ

見込ヲ尋ネ居レルニ徴スルモ此ノ點ニ關スル米國要路ノ關心ヲ察知シ得ヘク事變終了後對日感情ノ漸次緩和スヘキハ大戰後米國ノ對獨經濟援助ノ事例ニ照シ豫想シ得ル所ナリ然シ乍ラ我方當面ノ對米策トシテハ第一ニハ日本ノ提唱スル東亞新秩序ノ建設ハ決シテ米國權益ノ排除ニ非サル所以ヲ事實ニ示スヘキコトニシテ其ノ第一步トシテ米國關係ノ問題例ヘハ上海租界ノ北部ノ開放及上海大學善後措置ノ如キモノヲ解決シ成ルヘク速ニ揚子江航行問題等ニ及ホスコト然ルヘク、第二ニハ何ト云フモ米國ノ親英態度ハ動カスヘカラサル所ニシテ殊ニ米國財界ハ概ネ英國財界ニ追隨スルノ實情ニ鑑ミ此ノ際先ツ以テ我方ノ對英關係調整ヲ計ルコト最モ捷徑ナリ殊ニ目下ノ我方財政狀態ニ照シ右工作ノ眞ニ急務ナルヲ痛感セサルヲ得ス、第三ニ對英米ケイ(脫?)必要ナルハ勿論ナルモ單ニ東亞新秩序ノ標榜ニテハ歐米諸國ニ充分理解セシムルコト事實上困難ナルヲ以テ前記第一ノ措置ト共ニ文化方面ニ於テモ例ヘハ北京ニ東洋文化ノ大研究所ヲ開設スルノ計畫ヲ發表シテ廣ク世界の學者ヲ招致スルカ如キ現實の啓發ヲ以テ臨ムコト有效ナルヘシト思ハル是等ノ措置

ハ勿論既ニ御考慮中ノコトトハ存スルモ現下ノ國際情勢ニ鑑ミ支那事變ノ終局竝ニ日米關係ノ展開益々急務ナルヲ感スルニ付多少ノ重複^復ノ點アルヲ顧ミス卑見申進ス紐育ヘ別途通報セリ

英ヘ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ヘ轉報アリタシ

(付記)

對米工作要綱案

(昭和一四、二、七 亞)

第一 方針

現下我對米工作ノ目標ハ米國ヲシテ極東事件ニ關シ不干涉的消極的中立的態度ヲ持續セシムルコトニ在リ。即チ現段階ニ於ケル我對米工作ノ當面ノ重點ハ米國ヲシテ忽急ニ九國條約體制ノ消滅乃至門戶開放主義ノ拋棄ヲ強テ積極的ニ明認セシムルカ如キコトニ在ラス又米國ヲシテ今次事變ニ關シ我方ニ對シ特ニ好意的態度ヲ執ラシムルカ如キコトニモ存セスシテ專ラ米國ヲシテ東亞ノ新事態ヲ事實上默認セシムルト共ニ極東事件ニ關シ不干涉的態度ヲ持續セシムル

コトニ在リ。從テ現下我對米工作ノ方針ハ右目標ノ達成ヲ目的トシテ施策スルモノトス。

第二要領

事變目的ノ遂行乃至東亞新秩序ノ建設ニ對スル帝國不動ノ決意ト自信トヲ強ク印象セシムルコトハ現下我對外工作一般ノ基本ヲ構成スルモノニシテ右ハ對米工作ノ場合ニ於テモ當然留意セラルヘキ點ナル處前項方針ノ下ニ對米施策ヲ爲スニ當リテハ右ノ外特ニ左ノ二點ニ重點ヲ置クモノトス。

一、米國側ニ對シ帝國ノ冀求スル東亞新秩序ノ道義性ヲ闡明シテ米國ノ對支政策中ニ含マルル米國一流ノ正義人道論的道義觀ニ或程度ノ満足ヲ與フル如ク工作スルコト

(イ) 東亞ニ於ケル日本ノ眞使命

(ロ) 東亞新秩序建設乃至東亞協同體結成ノ世界史的意義

(ハ) 支那ノ赤化防止

(ニ) 支那ノ半植民地の地位ヨリノ解放

(ホ) 支那ニ於ケル「搾取ナキ社會」ノ建設(支那社會ノ封建的舊套ヨリノ脱却)

(ヘ) 日本ノ秩序維持力

二、米國側ニ對シ我國カ支那市場ノ排他的獨占ヲ企圖スルモ

ノニアラスシテ米國ノ對支商業利益ハ實際上尊重スルノ意圖アルコトヲ明カニシテ米國ノ對支政策中ニ含マルル實利的功利觀ニ相當ノ満足ヲ與フル如ク施策スルコト

(イ) 一定ノ保障

(ロ) 具體的措置

第三措置

前記方針及要領ノ下ニ對米工作ヲ展開スルニ當リテハ各種ノ措置ヲ併用スルノ要アルモ此ノ際特派大使ヲ米國ヘ派遣シ大統領ヲ初メ米國最高當局ト直接膝ヲ交ヘテ隔意ナキ意見ノ交換ヲ爲サシムルコト事宜ニ適スト認ム。

一、特派大使ノ任務

(イ) 前記要領ニ揭ケタル事項即チ米國ノ對支商業利益ノ尊重及東亞新秩序ノ性質ニ關シ帝國政府ノ眞意ヲ卒直ニ披瀝シ米國政府最高首腦部ト忌憚ナキ意見交換ヲ爲ス

コト(我方ノ眞意ヲ先方ニ傳達徹底セシムルコトヲ主眼トシ必スシモ先方ヨリ何等「コミットメント」ヲ取付クルヲ期待セサルコト)

(ロ) 情況ニ依リ太平洋ニ於ケル不侵略(比律賓ノ不可侵ヲ含ム)ニ關シ日米間ニ一定ノ了解ヲ遂クルコト

二、特派大使團ノ構成

特派大使トシテハ朝野ノ中ヨリ最適格ノ士ヲ簡拔シ外務及陸海軍ヨリ若干名ノ隨員ヲ同行セシムルコト

~~~~~

1350

昭和14年5月18日

有田外務大臣より  
在本邦グルー米國大使宛

グルー大使の帰國に際し東亜新秩序や防共強  
化の必要性などを説明した有田外相口上書

昭和十四年五月十八日ノ「グルー」大使歸朝ニ際スル  
有田大臣同大使會談ニ於ケル大臣ノ「オーラル、ステ  
イトメント」

一、「東亞ニ於ケル新秩序」ニ付テハ曩ニ卒直ナル意見ヲ開  
陳シ度々意見ノ交換ヲシタルガ不幸ニシテ未ダ充分ノ御  
了解ヲ得居ラズト思考スル處日本政府ハ新秩序ノ建設ニ  
ヨリ支那ニ於ケル歐米諸國ノ貿易其他ノ正當經濟的活動  
ヲ排除スルノ意圖ヲ有スルモノニ非ザルコトヲ此機會ニ  
重ネテ強く申上置キ度シ右ノ如ク新秩序ノ建設ハ一部ノ  
想像スルガ如キ排他的ノモノニアラザルハ勿論結局ハ之  
レニ依ツテ東亞ト歐米諸國トノ貿易其他ノ經濟關係ハ、

堅實ナル基礎ノ上ニ益々繁榮ニ赴クモノナルヲ信ズルモ  
ノナリ尤モ刻下我國ハ大規模ノ軍事行動遂行中ナルノミ  
ナラズ新秩序建設ノ理想ニ向ツテ漸ク其ノ第一歩ヲ踏ミ  
出シタルニ過ギザル際ナルヲ以テ軍事上經濟上ノ必要カ  
ラ第三國人ノ不便ヲ醸シ其ノ權益ニ影響ヲ及ボスガ如キ  
措置ヲ執ラザルヲ得ザルコトアリ去リ乍ラ此等ハ臨時的  
例外的ノ措置ニ過ギザルコト多キヲ以テ現在ノ事象ノミ  
ヨリ判斷セラルルニ於テハ日本ノ眞意ヲ誤解セラルルガ  
如キ結果トナルベク如此ハ常ニ親善ナルベキ日米關係ノ  
基礎ヲ動搖セシムルモノニシテ甚ダ遺憾トスルコトコロナ  
リ從テ此際日本トシテ希望スルコトコロハ支那ニ關シテ起  
生スル日米間ノ諸案ヲ取扱ハルルニ當リテハ米國側ニ於  
テ極メテ廣汎ナル地域ニ亘リ大規模ノ軍事行動ガ行ハレ  
ツツアルノ事實ヲ諒得セラルルト共ニ東亞ニ於ケル新事  
態ニ對シ大局上ノ考察ヲ加ヘラレ其ノ前提ノ下ニ適當ナ  
ル判斷ヲ下サレンコト之レナリ

二、帝國ガ曩ニ海南島ヲ軍事占領シ又最近新南群島ヲ帝國領  
土ニ編入スルヤ此等ノ事實ニ關聯シテ恰カモ帝國ガ南洋  
方面ニ意圖ヲ有スルガ如キ言説流布セラレ爲メニ關係諸

國中ニハ危惧ノ念ヲ抱ク向モアルヤニ承知スルノミナラス比島ニ關シテハ米國人中ニモ此種ノ危惧ノ念ヲ抱キ居ルモノ無キニアラスト聞ク如此ハ日米親善ノ見地ヨリ甚タ面白カラサルコトト信スルガ故ニ若シ米國政府ニ於テ之等危惧ノ念ヲ一掃スルタメ日本政府ガ此際何等カノ措置ヲ執ルコト望マシトノコトナラハ日本政府ニ於テハ其ノ措置ニツキ米國政府ト話合ヲナスノ用意ヲ有ス

三、我國ト獨伊トノ關係ニツイテハ防共ノ點ニ於テ結合シテ居ルモノテ日本トシテハ此結合ヲ更ニ強化スルノ必要アリト考ヘ考慮中ナリ

然シナガラ之レヲ以テ日本ガ全體主義國家ノ陣營ニ參加シテ民主主義國家ニ對抗セントスルモノナリトスルナラハ其レハ日本政府ノ眞意ヲ誤解スルモノテアル日本ハ民主主義國家ニ非サルト同様全體主義國家テモ無ク皇室ヲ中心トスル特異ノ國體テ對立ノ感念ヲ超越シ萬物ヲシテ其ノ處ヲ得シムルノ精神ニ基イテ居ルモノテアル日本カ獨伊ト提携スルノ人類ノ公敵タルコミンテルンノ破壊工作ニ對抗スル意味以外ニ無イノテアル若シ米國カ此點ニ關スル日本ノ眞意ヲ諒解セス誤解ノ上ニ其ノ將來政策

カ樹立セラルル様ナコトカアルナラハ其レハ單ニ日米兩國間ノ關係ニ於テノミナラス世界ノ平和ノ爲メニ悲ムヘキ事態ヲ惹起スルコトニナルテアラウ

1351

昭和14年5月29日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

現行法の武器禁輸條項を廢止すべきなど中立法に対する米國政府の意見を國務長官表明について

ワシントン 5月29日後発

本省 5月30日後着

第四四九號

往電第四三九號ニ關シ

「ハル」長官ノ中立法ニ關スル意見表明問題ニ付テハ累次往電ノ通り上下兩院外交委員トノ間ニ折衝アリタル結果長官ハ公聽會ニ出席スルコトハ避ケ極秘ノ懇談ナラハ出席モ可ナル旨ニ極リタルモ下院外交委員「テインカム」等ハ右ニ不滿ヲ唱ヘ行惱ミ居リシカ遂ニ二十七日長官ハ上下各院外交委員長ニ書翰ヲ送り國務省ノ態度ヲ表明セリ要旨左ノ

通リ

米國ハ世界平和ノ持續ノ爲ニ傳統的の不介入政策(policy of noninvolvement)ノ範圍内ニテ全力ヲ盡シ居レリ然レトモ如何ニ世界ノ出來事ト關係ヲ生セサル様努ムルモ全ク無關係(dissociation)トナル能ハス米國ノ中立法ハ他國ニ影響ナキ能ハス吾人ノ問題ハ某國ヲ援助スルヤ否ヤニアラス又他國ノ爭ニ裁決ヲ爲スニアラス他國ニ紛爭生シタルトキ之ニ捲込マレサルニアリ米國ノ第一ノ關心ハ安全ト平和維持ニアリ戰時國際法ノ中立法規ハ充分ニアラス戰爭ニ捲込マレサル爲ニハ特ニ立法ヲ要スルモ右ハ吾人ノ利益ヲ保全シ且國民ノ負擔ト經濟生活ノ破壊ヲ最小限度ニ止ムル如キモノタルヲ要ス國際法ニ依レハ中立國ノ制定スル法律ハ紛爭國何レニモ公平ニ適用セラルヘシトスルモ交戰國ニ對シ禁輸ヲ爲スヘキコトヲ要セス現代戰ニ於ケル禁制品ハ武器彈藥類ニ限ラス國民生活必需品ヲモ包含スルカ故ニ輸出品ヲ種類ニ依リ區別スルハ不可ナリ但シ總ユル物資ノ禁輸ハ米國ノ經濟生活ヲ破壊スヘシ豫測シ得サル事態ニ拘ラス千遍一律ニ武器ヲ禁輸スルコトノ望マシカラサルコト竝ニ夫ノミニテ總ユル危險ヲ避クヘシト爲シ得サルコトハ既ニ一九

三五年ニ大統領モ余モ述ヘタル所ナリ吾人カ紛爭ニ捲込マルルハ米人ノ生命ノ損傷ニ依ルコト多キニ付米國民及米國船ヲ危險區域ニ立入ラシメサルコトニ依リ有效ニ右危險ヲ阻止シ得ヘシ以上ノ理由ニ依リ、現行法ノ武器禁輸條項ハ廢止スルコト三、積荷ノ如何ニ拘ラス米國船ノ戰鬪區域立入ヲ禁止スルコト四、米國民ノ戰鬪區域旅行ヲ制限スルコト五、交戰國向物資ハ輸出前ニ買主ニ權利ヲ移轉スルコト六、現行法ノ金融條項ハ存續スルコト七、交戰國向義捐金募集ヲ調整スルコト八、全國軍需品統制局竝ニ武器輸出入ノ許可制ヲ存續スルコト然ルヘシト確信ス右「ライン」ニ依ル立法ハ吾人ヲ戰爭ニ捲込マス中立遵守ヲ便宜ナラシムルト同時ニ國民ニ不必要且異常ナル不安ヲ課スルコトヲ避クルコトヲ得ヘシ

1352

昭和14年6月5日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

米國陸海軍の屑鉄保存策により日本の屑鉄獲得が困難となりつつあるとの情報報告

ワシントン 6月5日後発  
本 省 6月6日後着

#### 第四七七號

四日華府「ポスト」ハ米國陸軍省某高官ノ言ニ依レハ米國陸海軍ノ屑鐵保存政策ニ依リ日本ノ屑鐵獲得ハ困難トナリツツアリトノ趣旨ノI、N、Sノ報道ヲ掲ケ居ル處要點左ノ通り

一、海事委員會ハ日本ニ輸出サル古船ハ日本カ支那侵略ニ用ユル鐵鋼獲得ノ爲ニ解體スルカ或ハ航行遮斷ニ依ル歐米船舶締出後ノ日本ニ依ル支那沿岸獨占航路ニ就航セシムルモノナルニ鑑ミ政府ノ米國政府關係屑鐵ノ事實上ノ對日禁輸ノ方針ニ副ヒ古船ノ對日輸出ヲ差控フヘキモノナル旨ノ通牒ヲ船舶工業筋ニ内々通牒シタル趣ヲ政府係官ハ洩ラシ居レリ

二、米國陸軍ヨリノ屑鐵保存政策ノ結果「スプリング・フィールド」(「マサチューセツト」州)及「ロツクアイランド」(「イリノイ」州)ノ陸軍工廠ヲ始メトシ全國ノ陸軍軍用置場ニハ屑鐵ノ山積ヲ見ルニ至レル處該政策ノ主唱者「ジョンソン」陸軍次官補ハ右二工廠ノ屑鐵ノ整理ヲ

命シタルモ賣拂禁止ノ解除ハ之ヲ拒絕シタル趣ナリ又海軍將校ノ言明ニ依レハ「エヂソン」海軍次官補ノ方針ハ屑鐵貯藏場ノ餘裕ナキニ至リタルトキハ五割丈ケ競賣ニ附スルコトヲ許シ競賣ハ六箇月毎ニ行ハレル由ナリ

三、斯クテ市場二現レルコトヲ抑制セラレ居ル陸海軍ノ屑鐵ハ年額十萬噸ト推算セラレ一九三八年ノ輸出總額三百萬噸ニ比スレハ言フニ足ラサルモ右政策ハ同年度ニ米國ヨリ百三十八萬噸ヲ購入セル日本ニ噸當リ二十弗ノ法外ナル平均値段ヲ持セシムルニ資シタルモノト官邊ニテハ認め居レリ

四、海事委員會ノ代辯者ハ解體目的ノ古船ニ對シ日本ヨリ驚クヘキ高値ニテ注文アリタルコトヨリ察スルニ日本ニテハ製鋼ニ必要缺クヘカラサル或種ノ合金力缺乏シ來レルモノノ如クナル處一九一六年ノ法律ニ軍用價值アリト認めラルル船舶ノ賣却禁止規定存スルニ基キ同委員會カ最近認可セサリシ船舶商談ハ十指ニ餘ル程ナリ唯右拒否ニ依リ巨利ヲ博スル途ヲ塞カレタル當業者ノ不滿一方ナラサルニ鑑ミ下院海運委員長「ブランド」ヨリ一九三六年ノ船舶補助金法ニ基ク建造代金ノ手付金トシテ古船ヲ當

テ得ル趣旨ノ法案議會ニ提出セラレ居リ海事委員會ハ之  
カ通過ヲ見込居レリト語レリ云々

紐育、桑港、羅府、「ポートランド」、「シヤトル」ニ暗送  
セリ

~~~~~

1353

昭和14年6月19日 在米国堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米国政府が屑鉄および鉄鉱輸出割当案の検討
を了し近く議會に付議する見込みとの報道に

ついて

ワシントン 6月19日後発
本 省 6月20日前着

第五三八號

十八日「AP」ハ消息通ノ情報ナリトシテ米政府事務當局
ニ於テ最近日本ヲ目標トスル屑鐵及鐵礦輸出割當案ノ研究
ヲ了シ近ク之ヲ議會ニ附スヘシト報道シ居ル處要點左ノ通
リ

一、最近十年間ヲ取りテ米國屑鐵及鐵礦ノ總輸出量ヲ國別ニ
計算シ一箇年ノ平均量ヲ算定シ輸出ニ當リテハ各國別ノ

右平均量ヲ越エサル様國務省ノ輸出許可ヲ要スルコトト
ス

二、右ハ各國一律ニ適用セシムルヲ以テ表面上ハ特定國ニ對
スル差別待遇ニアラサル如ク仕組マレ居ルモ日本ノ米國
屑鐵輸入ハ一九二三年ニハ五十萬噸ニ過キサリシモノカ
最近兩三年ニ於テ激増シタル事實ヲ捉ヘ日本ヲ惱マサン
トノ意圖ニ出ツルモノナリ(右案實現ノ曉ハ日本向輸出
割當ハ五十萬噸以下トナルヘシトノ由ナリ)云々
在米各領事ヘ暗送セリ

~~~~~

1354

昭和14年6月21日 在米国堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

米大統領が中立法修正案の今期議會通過を  
要望する談話発表について

ワシントン 6月21日後発  
本 省 6月22日後着

第五四八號

往電第五二八號ニ關シ  
十九日大統領ハ議員トノ定例會見ノ際中立法修正案ハ如何

二會期長引クトモ今會期中ニ解決スルコトヲ望ム旨ヲ述ヘタル由傳ヘラレタル處二十日更ニ新聞會見ニ於テ右希望ヲ繰返シ若シ議會カ本問題ヲ解決セスシテ閉會トナリ戰爭勃發スルニ於テハ何レカノ側ニ味方スト見ラレスシテ中立法案ヲ通過スルコト困難トナルヘク議會自身ニトリテモ右ノ如キ困難ヲ避クル方得策ナルヘシト述ヘタルカ議會カ中立法案ノ表決ヲ終ラスシテ閉會セル場合臨時議會ヲ召集スルヤ否ヤニ付テハ右ハ假定ニ基ク質問ナリトテ答ヘサリシ趣ナリ尙大統領ハ議會ノ各種法案審議ノ進捗振ニ鑑ミ七月初旬出發ノ計畫ナリシ旅行ハ取止セル旨ヲ述ヘタル趣ナリ

1355

昭和14年7月12日  
在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

中立法修正案の審議を次會期へ延期すること  
を上院外交委員会が議決した旨報告

ワシントン 7月12日後發  
本 省 7月12日夜着

第六四一號

往電第六一三號ニ關シ

十一日上院外交委員會ハ十二對十一ニテ中立法修正諸案ノ審議ヲ次ノ會期迄延期スルコトニ議決シタリ之ニ依リ今會期中ニ武器禁輸條項ノ撤廢ヲ含ム中立法修正ヲ行ハントシ居タル政府筋ノ希望ハ挫折セラレタル形ナリ尤モ上院ハ外交委員會ヨリ本件審議ヲ取上ケ直接本會議ニ上程スル途アリ民主黨院内總務「バークレー」ヨリ該手段ニ訴フトノ説アルモ特別ノ事情ナキ限り實現セサルヘシト察セラル曩ニ下院ニ於テ「ブルーム」案修正セラレ武器禁輸條項挿入セラルルヤ政府及民主黨幹部殊ニ大統領「ハル」長官「バークレー」院内總務等ハ下院議決ノ案ヲ不可ナリトシ「ブ」案原案ノ復活ヲ計レリ議會内外ニ於テ努力シタルモ右ハ却テ反對派ヲ刺戟シ「ジョyson」<sup>(印カ)</sup>「ボラー」等ハ盛ニ政府意見ヲ拔下シ下院議決ニ對スル英佛輿論ノ反響ニモ攻撃ノ矢ヲ向ケ其ノ結果上院議院<sup>(目カ)</sup>三十數名ノ間ニ武器禁輸撤廢ノ結束出來上リタル趣ノ經緯アリ結局十一日外交委員會ニ於テ從來態度必スシモ明瞭ナラサリシ民主黨ノ Gillette 及 George ノ兩名反對派ニ廻リ其ノ他民主黨員「クラーク」外二名ト共ニ共和黨五名其ノ他二名合セテ十二票ノ過半数ヲ制スルニ至レル次第ナリ



尙謀報ニ依レハ「ピットマン」ハ來ル十九日上院外交委員會ニ九箇國條約違反國ニ對スル武器彈藥戰爭用具及材料禁輸案(往電第三四八號九箇國條約違反國ニ對スル通商制限案ノ代案ナリ)ヲ提出シ審議ヲ求ムヘク右案ハ「ピ」ニ依レハ政府モ反對ナラス且中立法審議延期ニ對スル代價トシテ至當ナルヘシトノコトナリ又如何ナル中立法案ノ審議ニモ反對ナリト傳ヘラル華州選出「ボーン」ノ如キモ選出州ノ對日空氣ニ鑑ミ右禁輸案ニ關スル限り態度ヲ緩和スル可能性アリトノコトナリ

紐育へ暗送セリ

1356

昭和14年7月13日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

中立法修正審議延期の議決を受けて上院外交  
委員長が軍需物資禁輸法案を上院に提出した  
背景など米國議會の動靜報告

ワシントン 7月13日後発

本省 7月14日後着

第六五一號

往電第六四六號ニ關シ

十一日午前上院外交委員會カ中立法修正問題審議延期ヲ議決スルヤ「ハル」長官ハ直ニ大統領ト意見交換後「ピットマン」「バークレー」「ブルーム」ヲ招致シ善後策ヲ協議シ「ピ」禁輸案カ急遽同日午後上院ニ提出セラレタル経緯ニ鑑ミ同案提出ノ裏面ニハ時局柄多分ニ政府ノ考カ動キ居ルモノト見ラル現ニ「ピ」ハ右禁輸案ノ審議ハ中立法修正問題ヲ再燃セシムヘク委員會議決ノ趣旨ニ反スト云フ反對論ニ對シ本案ハ中立法修正問題トハ別個ノ問題ナリト主張スルノミナラス次期ノ通常會期ノ始マル來年一月迄ニ日支關係ハ一大轉機ニ際會スヘク今回ノ禁輸案乃至「シユエレンバツク」ノ對日禁輸案(「ピ」案ト異ル主ナル點ハ(一)大統領ノ布告カ「ピ」案ニテハ三十日目ニ發效スルニ對シ「シユ」案ハ六十日以内ニ議會カ反對決議ヲ爲ササル限り發效シ(二)「ピ」案カ九ヶ國條約第三條ノ門戶開放原則ノ違反ヲ問題トスルニ反シ「シユ」案ハ第一條ノ領土保全ノ違反ヲ問題トシ居ルニアリ往電第四六六號御參照)カ成立シ居ラハ日支紛爭解決ニ際シ米國政府ニ外交的武器ヲ與ヘ日本ノ支那ニ加ヘントスル壓力ヲ有效ニ阻止スルヲ得ヘシトノ意

味合ヲ新聞記者ニ公言シ居レルカ更ニ空爆問題、揚子江航行問題、北支爲替問題等ノ實情ヲ知り之カ解決ニ焦慮シ居ル政府關係當局ハ單ニ斯ル案ノ提出審議ノミニ依リテモ現下ノ對日關係ニ何等カノ響キヲ聞カセントスル「ヂエスチヤー」ト見ラルル節モアリ今回ノ「ビ」禁輸案差當リノ見透シトシテハ往電第六四一號末段「ボーン」ノ態度ニ關スル聞込又ハ武器禁輸撤廢反對ノ急先鋒タル「クラーク」モ今回ノ「ビ」案ニハ贊成ナル旨ノ十二日華府發紐育「タイムス」通信等ヨリ察シ政府ノ中立法修正方針ニ反對ノ者ノ中ニモ本案ヲ支持スルモノアリ從テ本案ハ「ブルーム」原案(往電第四六〇號)ヨリハ上院委員會通過ノ可能性多キ如シ唯議會ノ一部ハ休會ヲ前二控エ浮腰立チ居リ目下議會ノ大問題タル二十六億弗貸付政策竝ニ社會保險法修正ニ略々手一杯ノ様子ナルニ付果シテ上院本會議ニ廻リ得ルヤ否ヤ甚タ疑問ト認メラル

三「ハル」長官ハ其ノ後新聞會見ニ於テ米國ノ安全ト平和維持ノ爲ニ曩ニ發表セル六項目(往電第四四九號)ノ立法化ハ是非必要ナル旨再度強調シ大統領モ新聞會見ニ於テ之ヲ支持シ現行法ノ儘ニテハ政府ハ外交政策遂行上何等手ヲ有

セストノ意味合ヲ述ヘ前述上院外交委員會ノ中立法審議延期ノ表決ハ必スシモ上院全體ノ空氣ヲ代表スルモノニ非ストテ政府當局及與黨幹部ヲ督促シ對策協議中ノ趣ニテ或ハ近日中議會ニ對シ特別敎書ヲ發シ一般議員ニ働き掛クヘシトカ或ハ一、二ヶ月議會ヲ休會シ豫定通り西部ヘノ旅行ヘ出掛ケ國內輿論ノ誘導ヲ試ミタル後九月頃臨時會期ヲ開キ政府案ノ成立ヲ圖ルヘシトカ取沙汰セラレツツアリ何レニセヨ政府トシテ其ノ希望スル「ライン」ニ依リ中立法修正ヲ何トカ貫徹セン意氣込ト認メラル

紐育ヘ暗送セリ

1357

昭和14年7月14日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

上院外交委員長提出の軍需物資禁輸法案は日米通商航海条約に抵触するとの疑義について  
上院が國務省へ研究方要請について

ワシントン 7月14日後発  
本省 7月15日後着

第六五六號

往電第六五一號ニ關シ

十四日午前上院外交委員會ハ「ビ」禁輸案ノ審議ヲ開始セルカ本案ノ實施ハ日米通商條約違反ナルニアラスヤトノ疑義出テ約二時間ノ討議ノ結果「ハイラム、ジョンソン」ノ動議ニ依リ條約關係ヲ國務省ノ研究ニ委スコトトシ右報告ヲ俟チテ來週委員會ヲ再開スルコトニ決シタル趣ナリ  
對日「エンバーゴ」案ハ一部ニ熱心ナル支持者ハアルモ總體トシテ未タ一般ニ之ヲ受容ルル丈ケノ下地出來居ラス政府ハ空爆問題ニ付テモ被害事實其ノモノノ發表モ地味ニ爲シ居リ此ノ際對日輿論ヲ特ニ喚起セントスル形跡ナクスル案ノ提出及審議力對日折衝上ニ齎ラス效果ヲ考慮ニ入レ居ルモ左リトテ「ブルーム」原案ニ對スル如ク表面的ニ之ヲ支持スル氣配ヲ示サス今ノ所「ピットマン」ヲ操リテ「ヂエスチユアー」ヲ試ムル程度ト認ムヘク新聞報ニ依ルモ「クラーク」、「ボラー」、「ジョンソン」、「ナイ」、「バンデンベルグ」、「ラフォレット」等ハ十三日本案ニ對シ意見交換ヲ行ヒタル結果本案ハ十二分ニ討議スルヲ要ストノ結論ニ達シタルカ右ハ彼等カ Filibuster ヲ爲サントスルモノナルヘシトノ趣ナリ

紐育ヘ暗送セリ

1358

昭和14年7月15日

在米国堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

中立法修正問題に関する米国大統領教書および

び國務長官声明について

ワシントン 7月15日前發

本省 7月15日後着

第六五七號

往電第六四六號ニ關シ

中立法修正問題ニ關シ數日前ヨリ取沙汰セラレ居タル通り十四日午後大統領ハ「ハル」長官ノ聲明書ヲ附シテ教書ヲ議會ニ發シタルカ要スルニ現下ノ國際情勢ニ照シ曩ニ國務長官ノ公表セル六項目ヲ取入レタル修正案ヲ現會期中ニ成立セシムル必要アリト強調シタルモノニシテ教書及聲明書ノ要旨左ノ通り

一、教書

予ノ教書ニ附屬スル國務長官ノ聲明ニ對シ予ハ全幅ノ贊意ヲ表シ深甚ノ注意ヲ加ヘンコトヲ望ム平和ノ爲ニ又米

國ノ中立ト安全ノ爲ニ議會カ今會期中ニ必要ノ措置ヲ取  
ルノ極メテ望マシキコトハ予ハ夙ニ感シ居タルカ現在ノ  
世界情勢ニ鑑ミ右意見ヲ變更スヘキ何等ノ理由ヲ認メス  
ニ、聲明書

中立法修正問題ニ關シテハ種々雜多ナル見解竝ニ誤解存  
スルカ故ニ政府支持案(「ブルーム」)修正案原案ヲ指ス往  
電第四六〇(號參照)ノ根幹タル六項目(往電第四四九號參  
照)ニ付意見一致セリト認メラルル點ト然ラサル點トヲ  
列舉スルニ(一)米國ノ平和ト安全ヲ第一要件トスルコト(二)  
外國間ノ戰爭ニ米國力捲込マレサルコト(三)同盟其ノ他對  
外國係ノ紛糾ヲ來ス約束ヲ避クヘキコト(四)外國間ノ戰爭  
ニ際シ米國ハ嚴正中立ヲ維持シ之ヲ根底トシテ政策ヲ樹  
立スヘキコトノ四點ニ付テハ意見一致シ居レリ然ルニ政  
府支持案贊成者ハ中立ハ「インパーシヤリテイ」ナリト  
シ中立ニ關スル國際法規ニ依レハ地理的關係又ハ兵力ノ  
優劣ニ依リ一國カ他國ヨリ有利ノ地位ニ立ツコトヲ禁輸  
ニ依リテ防クコトヲ要セストスルニ對シ反對者ハ武器ノ  
禁輸ハ米國ノ中立政策ニ取リ缺クヘカラサルモノナリト  
テ之ヲ存置セントシ其ノ結果ノ不公平ニ陷ルコトヲ意ニ

介セス而シテ現行法ハ武器彈藥竝ニ戰爭用具等ノ原料輸  
出ヲ許スヲ以テ單ニ武器等ノ禁輸ヲ以テ米國ノ中立ヲ維  
持シ得トナスハ人ヲ誤解ニ陷ラシム武器ハ戰時國際法ニ  
依レハ絕對禁輸品トシテ拿捕セラルルモ致方ナキモノナ  
レハ紛議ヲ生セス之ヲ生スルハ寧ロ武器ノ原料品ナリ政  
府支持案ハ「キヤツシユエンドキヤリー」制ヲ取り又戰  
鬪區域ニ立入ルコトヲ禁シ以テ紛議ヲ避ケントス政府ノ  
考ニ依レハ現行法ノ武器禁輸規定ハ軍備ノ強大ナル國ヲ  
援ケ平和愛好國ヲ不利益ナル立場ニ立タシメ軍備又ハ武  
器製造能力少ナキ國ヲシテ平時ニ在リテハ政治的經濟的  
ニ大武裝國ノ意ヲ迎フルヲ餘儀ナクセシメ戰時ニ在リテ  
ハ國防力ニ缺陷ヲ來サシムヘキヲ以テ寧ロ世界ニ戰爭熱  
ヲ煽リ米國最高ノ利益ニ反ス

現下國際平和ノ危機ニ際シ余ハ米國ノ戰爭介入回避ノ第  
一ノ手段ハ大戰爭ノ勃發ヲ避クル爲傳統的の不介入(not  
involvement)政策ノ範圍内ニ於テ總ユル手段ヲ盡スニア  
リト信ス米國民ハ米國ノ直面スル危險ヲ増大スルモノハ  
世界戰爭ナルコトヲ忘ルヘカラス余ハ議會カ第一ニ戰爭  
回避ノ爲ニ而シテ一旦戰爭起ラハ米國ノ安全確保ノ爲ニ

全幅ノ協力ヲ爲サンコトヲ熱望ス武器ノ販賣ハ不道德ナレハ禁止スヘシトノ熱心ナル議論アルモ米國カ近年輸出スル武器ハ平和ヲ欲スルモ自衛上軍備ヲ必要トスル諸國ニ向ケラレツツアリ現下ノ國際情勢ニ於テ列國ハ米國ト同様軍備ノ必要ヲ感シ殊ニ小國ハ武器製造能力多キ米國ニ頼ラサルヘカラサル立場ニ在リ米國ノ禁輸ハ之等小國ヲ一層不安ナラシムルニ過キス斯ル自衛ノ具ノ販賣力不道德ナリトセハ道德ノ定義ヲ變ヘサルヘカラス次ニ武器禁輸ノ撤廢ハ政府ノ權力ヲ擴大シ禁輸ノ持續ハ政府ノ權力ヲ制御スヘシトノ宣傳行ハルルモ公平ニ購買セシムルコトハ何等政府ニ購買者ノ選擇ヲ許シ米國ヲ一定ノ政策又ハ行動ニ束縛シ特定國トノ間ニ紛議又ハ戰爭ヲ生スルモノニアラス曩ニ余ノ發表セル六項目ニ基キタル政府支持案ハ何等國際紛議ニ種ヲ時カサルノミカ現行法ニ比シ世界戰爭ノ勃發竝ニ米國ノ戰爭介入ノ危險ヲ極度ニ減少スルモノナリ外交ニ關シテハ行政府ト立法府トノ間ニ協力ノ精神ナクハ結局平和及國家ノ重大利害ヲ損スルニ至ルコト萬人ノ認ムル所ナルヘシ余ハ切ニ此ノ協力ヲ標榜ス建設の批判ハ盡ササルヘカラサルモ外交ニ關シ黨派

ヲ働カスヘカラス米國ハ現下ノ國際情勢ニ於ケル異常ナル狀態若クハ危局ニ眼ヲ閉シテ平和維持竝ニ中立ニ關スル政策ヲ樹ツルコトヲ得ス右政策ハ茲數ヶ月間ノ米國ニ取り最モ重大ナル影響ヲ與フルモノニシテ政府ハ能フ限り早キニ及ンテ措置ヲ執ルヘキモノナリト判斷ス

~~~~~

1359

昭和14年7月19日
在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

中立法修正問題に関する米國政府首脳と与野
党領袖の協議会は妥結せず審議延期が確定に
ついて

ワシントン 7月19日後発
本 省 7月20日後着

第六七五號

既電ノ通り大統領ハ十七日白聖館ニ於ケル民主黨員院内總務トノ定例協議會ニ於テ國務長官ト共ニ今期議會中ニ現行法ノ武器禁輸條項撤廢方ニ付協議シタルカ結論ニ達セス依テ民主黨領袖ノ意見モアリ中立法問題審議以來初メテノ取計トシテ共和黨領袖ヲ加ヘ更ニ二十八日夜協議會ヲ續行スル

コトナリ同夜民主黨ヨリ「ガーナー」副大統領「バークレイ」院内總務「ピットマン」外交委員長共和黨ヨリ「マクナリー」院内總務「オースチン」副總務「コラー」外交委員少數派代表出席シ大統領「ハル」長官ト共二三時間半ニ亘リ意見ヲ交換シタルカ民主共和兩派議員今會期ニ於ケル修正ハ思ヒ止マル方可ナルヘキ旨ヲ大統領ニ勸奨シ大統領ハ中立法ヲ修正セサルコトニ依リテ生スル責任ハ實ニ上院ニアリト迄言明シタルヤニテ結局政府モ修正問題ヲ次會期迄延長ノコトニ折レ協議會修了ト共ニ新聞記者ニ對シ「バークレイ」及「マクナリー」連名ニテ當夜出席ノ上院議員ハ今會期中ハ何等中立法關係ノ立法ヲ爲スヲ得ス來會期早々本件ヲ取上クルコトニ意見一致シ且上院ノ多數モ同様ノ見解ナリト考ヘラルル旨聲明シ又大統領及「ハル」長官ハ上院カ中立法ヲ修正セサル爲來年一月迄ニ歐洲ニ危機生スルコトアルヘキ場合平和維持ノ爲ノ米國ノ指導權弱メラレタリトノ見解ヲ保持スル旨ノ聲明ヲ與ヘタリ右會合ノ席上大統領ト「ボラー」トノ間ニ相當議論アリタル由ニテ「ハル」長官ハ白雲館ヲ去ルニ當リ記者ニ對シ今後ハ歐洲及亞細亞ニ於テ面倒カ多クナルヘシト語レル趣ナリ

1360

昭和14年7月19日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約の廢棄を求め共和党バンデ

ンバーグ議員が上院に決議案提出について

ワシントン 7月19日後発

本 省 7月20日後着

第六七八號

往電第六六三號ニ關シ

十八日上院共和黨Vanderbergハ左ノ決議案(共同決議案ト異リ一委員ノ見解ヲ表明スルニ過キサルモノ)ヲ提出シ外交委員會ニ附託セラレタルカ右ハ Pittman 禁輸案カ日米通商條約ニ牴觸スルヤ否ヤニ關スル國務省ノ意見(近日中提出セラルヘシトノコトナリ)ノ内容ヲ豫期シテ爲サレタルモノト見ラレ居ルモ新聞紙上ニハ極メテ小サク取扱ハレ居レリ

「新タナル必要ニ應シ政府カ米國權益ヲ保護シ且ツ日本ト新條約締結ヲ交渉スル爲政府ハ日米通商條約ニ基キ六ヶ月ノ豫告ヲ以テ同條約廢棄ヲ日本ニ通告スヘキコト九ヶ國條約ノ規定ニ從ヒ日本カ同條約ニ違反シタリヤ又ハ違反シ居

ルヤヲ決定シ且ツ締結國ノ採ルヘキ適當ノ措置ヲ勸奨スル爲政府ヘ目下休會中ノ一九三七年「ブラッセル」會議ノ再開ヲ求ムヘシ」

尙紐育「タイムス」十八日華府通信ハ「バ」ハ議會後波蘭其ノ他歐洲諸國ヲ歴訪スル由ナルカ右ハ孤立主義ノ論據ヲ強ムル材料ヲ蒐集スル爲ナルヘク一九四〇年ノ大統領選舉ニハ中立法修正孤立主義ノ是非中心問題トナルヘク豫想サルルニ鑑ミ「バ」ノ渡歐ハ政治的意義鮮カラサルヘシト述ヘ居レリ

1361

昭和14年7月22日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

上院外交委員長提出の禁輸法案が日米通商航海条約に違反するかは次会期まで慎重に検討する旨など國務長官が見解公表について

ワシントン 7月22日後発

本省 7月22日夜着

第六八三號

往電第六七八號ニ關シ

「ピットマン」禁輸案ノ日米通商條約牴觸問題ニ付上院外交委員長ヨリ國務長官ヘ發セル照會ニ對シ二十一日「ハル」長官ハ「ピ」委員長ニ對シ書翰ヲ以テ「本案竝ニ同種類ノ決議案ニ關スル議會ノ情勢ニ鑑ミ本件立法案ノ充分且慎重ナル研究ヲ來會期迄延長セントスル意嚮議會ニ存スルト見テ差支無ク又速ニ議會ヲ休會セントスル暗黙ノ合意アル模様アルニ付斯ル決議案ノ審議成立ニ必要ナル時日モ無キコト明カナルカ如シ依テ此ノ種米國外國關係ニ關聯スル決議案ニ對スル國務省ノ意見ハ來會期ニ至リ議會カ充分審議ヲ盡シ得ル時機ニ當リテ提出スル方目的ニ副フニ非スヤト考フ」ル旨回答シ同時ニ「バンデンベルグ」提出ノ日米通商條約廢棄方ニ關スル決議案(往電第六七八號)ニ付テモ議會カ之ヲ可決セル場合ハ大統領ニ於テ充分且慎重ナル考慮ヲ加フヘキ旨ヲ「ピ」委員長ヘを送リタリ

從テ「ピ」禁輸案「バ」決議案其ノ他類似ノ諸案ノ審議ハ舉ツテ次ノ會期迄延期セラルルコトナリタル次第ナリ尙其ノ後傳ヘラルル所ニ依レハ十八日ノ白聖館ニ於ケル政府竝ニ上院代表ノ協議會(往電第六七五號)ニ於テモ大統領ハ中立法修正問題ノ經緯ニ顧ミ今會期ニ於テ前記兩案ヲ審議

スル必要モナカルヘキ旨述ヘタル由ナリ尙十九日及二十日下院外交委員會ニテハ元南京宣教師「フイツチ」夫人「ブレイクスレー」教授等對日禁輸案贊成者ヲ公聽會ニ招致シテ意見ヲ聽キ「フツシユ」「ティンカム」委員等ハ本案ハ對日戰爭ヲ惹起スヘシトテ反對シ相當論爭アリタル趣ナリ

1362

昭和14年7月26日 在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國政府が日米通商航海條約の廢棄を通告し

た旨報告

別電 昭和十四年七月二十六日發在米國堀内大使より

り有田外務大臣宛第七〇七号

右廢棄通告

付記 昭和十四年七月二十六日付

右廢棄通告和訳文

ワシントン 7月26日後發

本省 7月27日後着

第七〇六號(大至急)

二十六日「セイヤー」ノ求メニ依リ須磨往訪セル處「セ」

ハ内容別電第七〇七號ノ公文ヲ手交シ本日ハ之以上申上クル必要ナキニ付御一讀アリタシト述ヘタルニ對シ須磨ハ一讀ノ上突嗟ノ質問ナルカスノ如キ重大決定ハ過般成立セル日比綿布ノ紳士協定ニモ鑑ミ甚シク「アブラプト」ナル措置ト見ラルル處右決定ハ「バンデンベルグ」決議案等ニ見ラルルカ如キ上院内ノ暴論ニ左右セラレタル次第ナリヤト尋ネタルニ「セ」ハ上院方面ノ「サゼスチョン」ニ依リシモノニアラス又議會ノ空氣ト直接關係ハナキモノニシテ數年ニ亘リ國務省力研究シ來リタル結果ト諒承アリタシト答ヘ

「セ」ハ右公文手交直後在京代理大使ニ其ノ旨電報シ直ニ新聞ニ發表スル心算ナリト言ヘルニ依リ須磨ヨリ御申出ハ之ヲ大使ヨリ政府ニ取次カルル前ニ發表セラルルハ徒ニ反響ヲ大ナラシムルモノナルヲ述ヘタルニ「セ」ハ電話ニテ「ウエルス」次官ト相談ノ上我方電報着京ノ頃本日午後一〇時別電「テキスト」ヲ内容トスル廢棄通知ヲ其ノ儘發表スルコトニ承諾セリ

本電別電ト共二英、紐育ヘ轉電セリ

(別電)

ワシントン 7月26日後発
本省 7月27日後着
第七〇七號(臣等)

2 日米通商航海条約廃棄通告

During recent years the Government of the United States has been examining the treaties of commerce and navigation in force between the United States and foreign countries with a view to determining what changes may need to be made toward better serving the purposes for which such treaties are concluded. In the course of this survey, the Government of the United States has come to the conclusion that the Treaty of Commerce and Navigation between the United States and Japan which was signed at Washington on February 21, 1911, contains provisions which need new consideration. Toward preparing the way for such consideration and with a view to better safeguarding and promoting American interests as new developments may require, the Government of the United States, acting in accordance with the procedure

prescribed in Article XVII of the treaty under reference, gives notice hereby of its desire that this treaty be terminated, and having thus given notice, will expect the treaty, together with its accompanying protocol, to expire VI months from this date.

(付記)

閣下、最近數年間米國政府ハ米國ト他國間ニ存在スル通商航海條約ニ關シ、右條約カ締結サレタル目的ヲヨリ良ク達成スルニハ、如何ナル變更力必要ナルカラ決定スルコトヲ目標トシテ檢討ヲ加ヘツツアリタリ。右檢討中、米國政府ハ一九一一年二月二十一日「ワシントン」ニ於テ調印サレタル日米通商航海條約ハ新タナル考慮ヲ要スル條項ヲ包含ストノ結論ニ到達セリ。カカル考慮ヘノ途ヲ拓キ、且ツ新事態ノ發生ニ即應シテ米國ノ權益ヲ助長スルタメ、米國政府ハ該條約第十七條ニ規定サレタル手續ニ從ヒ、茲ニ本條約ノ期限終結ヲ希望スル旨ヲ通告ス。而シテカカル通告カナサレタル以上、本條約及附屬議定書共ニ、本日ヨリ六ヶ月以後ニ滿期トナルモノト期待ス。茲ニ閣下ガ余ノ最高ノ

敬意ノ新タナル保證ヲ受ケラレンコトヲ希望ス。

1363

昭和14年 7月 27日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告の背景につき觀測報告

ワシントン 7月27日前発

本 省 7月27日後着

第七〇八號(極秘)

往電第七〇六號ニ關シ

日米通商條約廢棄通告ハ甚タ突然ナル遣方ナル處大統領ヲ始メ政府首腦部ニ於テハ豫々希望シ居ル中立法修正案ハ今會期ニ於テ立消トナリ「ピットマン」禁輸案モ日米通商條約牴觸問題ノ爲次會期迄延期セラルコトナリ斯クテ極東ノ事態ニ應シ我方ニ對シテ執ルヘキ有效ナル牽制手段ナク來年ノ會期ヲ待タサルヘカサル事態ニ直面シ他面空爆問題ニ對スル我方ノ回答ハ大統領其ノ他ノ者ヲ充分納得セシムルニ足ラサリシモノノ如ク其ノ後支那各地ニ於ケル米人毆打事件續出竝ニ珠江閉鎖ノ報アリ政府トシテ何等カ的確ナル措置ヲ執リ置クコト内政上モ必要トナリタル爲茲ニ

此ノ舉ニ出テタルモノナルヘキカ更ニ見逃スヘカラサルハ日英會談ニ於ケル英ノ讓歩及其ノ米國ニ對スル影響ノ懸念ニ基キ米國トシテハ英國カ如何ナル便宜讓歩ヲナスモ米國ニ取リテハ「セパレート、イツシユ」ニシテ米國ハ其ノ權益ヲ擁護スルニ必要ナル獨自ノ手段ヲ執ルモノナリトノ意味合ヲ此ノ際顯著ナラシムル目的ヲモ加味シテ此ノ措置ニ出テタルモノナルヘキ點ナリ斯クシテ一氣ニ前記「ピットマン」禁輸案ニ對スル日米通商條約牴觸問題ヲ解決シ來年一月ノ議會ニ於テ正面ヨリ「ピットマン」禁輸案ヲ支持シ得ル素地ヲ作り依テ以テ向フ半年間ニ於ケル極東時局ニ關聯シ我方ニ對シ或迫力ヲ加ヘント決意スルニ至レルモノト觀察ス本件處置ニ付テハ諸般ノ狀況ヨリ察シ大統領ノ意嚮強ク動キタルモノナルコトハ殆ト疑ノ餘地ナク大統領ノ下ニ多年通商次官トシテ働キタル「セイヤー」カ比律賓「ハイコンミツシヨナー」ニ指名セラレタル當日「セイヤー」ヨリ廢棄通告ヲ我方ニ手交セシメタル點モ大統領「セイヤー」ノ關係ニ鑑ミ本件措置カ多分ニ政策の考慮ヨリ出テタルモノナルコトヲ窺ハシム

英、紐育ニ轉電セリ

英ヨリ在歐各大使ニ暗送アリタシ

1364

昭和14年7月27日

日米通商航海条約廃棄通告に関する情報部長談話

日米通商航海条約廃棄通告に關する情報部長談

昭和十四年七月二十七日

一、今回米國政府から在米帝國大使を通し日米通商航海條約の廢棄を正式に通告して來たか何分數から棒のことであり又理由も簡單である爲其の眞意果して奈邊に存するかは未だ詳かにし得ないのである。

一、米國側に於ては廢棄の理由として茲數年間米國と諸外國間に締結せられたる通商條約の總てに付て變更の要ありや否やの研究を爲し來つたか現行日米通商航海條約に付ては新規考慮を加ふべき、若干の條項ありとの結論に達し且新事態に即應して米國の權益を擁護増進する爲に現行條約の終止廢棄を希望する旨を述へて居る。乍去右の理由は同時に條約改訂の理由ともなるのであり一舉飛躍的に然かも突如廢棄を通告せねはならぬ理由は是丈けて

は明白にされたと云へない。

一、又米國政府は今回の通告と最近米國上院外交委員會内で行はれたヴァンデンパーク氏提議に係る日米通商航海條約廢棄に關する討議とは何等關聯かないと釋明して居るか、折も折、日英天津會談の進行中として今回の措置に重大なる政治的意義ありと一般から觀らるる危險か非常に多いであらう。

一、今や極東に於ては新事態が非常な勢で展開しつつあり。世界各國がこの事實に目を蔽ふことなく正當なる認識を深めむことは帝國政府の夙に要望し來つたことである米國政府がこの極東に於ける新事態に即應して新條約の締結を望むならば帝國政府は喜んで之に應ずるの用意あることは言ふ迄もない。

1365

昭和14年7月27日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廃棄通告に関する米国紙論
調報告

第七一四號

ワシントン 7月27日後発
本 省 7月28日前着

日米通商條約廢棄通告ハ二十六日「クリスチヤン、サイエンス、モニター」華府通信中國務省ニ於テ協議中ノ旨傳ヘラレタル外何等ノ前觸乃至氣配ナク二十七日各紙第一面ニ大見出ヲ以テ掲ケラレ一般ヲ驚カシタル模様(AP)ナル處有力新聞ノ報道振ヲ見ルニ元々對日禁輸論ハ中立武器禁輸條項撤廢論ヨリ支持者多キニ拘ラス議會ハ來年一月ノ次會期迄何等措置ヲ執ラサルコトトナシタル爲政府ハ日本ニ怯懦乃至混亂分裂ノ様ヲ看取ラルルヲ惧レ一舉ニ通告措置ヲ執リタルモノナルヘシ條約廢棄ハ必スシモ對日禁輸ノ實施ヲ意味セサルモ少クトモ政府ハ實施ノ用意ヲ爲シタルコト、英國力支那ニ於テ日本ノ軍事上ノ必要ヲ認メタルニ拘ラス米國ハ英國ト軌ヲ一ニスル意思ナク在支權益ハ飽迄擁護ノ肚ナルコト、支那各地ニ於ケル米人毆打事件等米人ノ威信ニ係ハル事件ヲ甘受セサルコト等ヲ意味シ(紐育「タイムス」從來何等效果ナカリシ抗議二代ヘ大統領ノ所謂戰爭ニ至ラサル有效措施ヲ執リタルモノニシテ(華府「ボス

ト」本件ハ經濟の意味ヨリモ政治の意味優レリトナスモノ大多數ナリ但シ「ボルチモア、サン」ハ通告公文ニモ政府カ豫告期間滿了前ニモ新條約締結ノ爲話合ヲ始メントスル意思現レ居レリトテ經濟の意味ヲ同時ニ表シ尙期間滿了後日本モ對米禁輸ヲ爲シ得ル次第ナルカ日本ハ生糸ヲ禁輸シ得ルノミナルニ反シ米國ハ日本ノ必要トスル軍需品ヲ禁輸シ得ル點大イニ異ルトナシ華府「タイムス」、「ヘラルド」ハ日本「スポークスマン」ハ最近米國カ對日禁輸ヲ爲サハ日本ハ直ニ報復スヘシト述ヘタル旨ヲ再報シ多少困難ハ伴フモ日本ハ米國ヨリ求メ得サル物資ヲ歐洲ニ仰クコトヲ得ヘシト述ヘ居レリ直接本件ニ關スル社説ハ二十七日ノ朝刊ニハ未タ現レサルモ同日「ウォールストリートジャーナル」ハ國務省ハ日米新條約締結ニ際シテハ日本特殊權益ヲ主張スル地方ニ於ケル米國民ノ權利保護ニ關スル包括の規定ヲ入ルヘキコトヲ主張スヘク「ハル」長官ハ此ノ點ニ付報復の立法ニ依ラス外交の措置ニ依ラントスルハ現下ノ排日政策トシテ妥當ナリト論シタリ

1366

昭和14年7月28日

在上海三浦総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告に対する重慶各界
の熱狂歡迎振りについて

上海 7月28日後発

本省 7月28日後着

第二一一六號

二十七日重慶發路透社電ニ依レハ米國ノ日米通商條約廢棄通告ニ關シ同地各界ハ非常ノ熱狂振ニテ米國ノ此ノ種決定ハ六箇月後ニ效力ヲ發生スルトスルモ支那ニ對シ最大ノ道義的支援ヲ與ヘタルモノト爲シ居レルカ重慶ニ於テハ本件發表前既ニ米國カ何等カノ「ゼスチヤー」ヲ示シテ英國ノ極東ニ於ケル懷柔策ヨリ離脱スヘシトノ情報ニ接シ得タリト稱シ居レリ尙各觀測者ハ米國今次ノ措置ハ心理上實ニ功妙ヲ極メタル遣方ニシテ一般支那人ニ最も深刻ナル好印象ヲ與フヘシト爲シ居ル趣ナリ

北京、天津、南京、漢口ニ轉電シ香港へ暗送セリ

1367

昭和14年7月28日

在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米間の新通商条約締結協議は現行条約失効
までの六か月間における事態の成り行き次第
によると國務長官言明について

ワシントン 7月28日後発

本省 7月29日前着

第七一八號

往電第七一六號ニ關シ

「ハル」國務長官ハ二十七日記者會見ニ於テ今回ノ通商條約廢棄通告ハ極東ニ於ケル政治問題ト關聯シ居ル次第ナリヤトノ質問ニ答ヘ目下ノ所通告文自體カ凡テヲ語リ居リ別ニ附加スヘキコトナシトテ深入リヲ避ケ又新條約締結商議ニ關スル次ノ「ステツプ」ノ細目ニ付テノ質問ニ對シテハ右ハ條約失効ニ至ル迄ノ六箇月間ニ於ケル事態ノ成行如何ニ依リ決定セラルヘキ旨ヲ言明シ且東京ヨリ未タ決定的ナル反應ニ接シ居ラサルコト及日本品關稅増徴問題ニ付テ未タ大藏長官ト協議シタルコトナキ旨ヲ述フルト共ニ綿布ニ關スル日米間紳士協定ハ本件通商條約トハ全ク無關係ナル

旨語レル趣ナリ
紐育へ郵送セリ

1368

昭和14年7月28日

在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告に関する英國の新
聞論調および英國外務省声明につき報告

ロンドン 7月28日後發
本省 7月29日前着

第八七九號

一般的情報⁽¹⁾

一、廿八日「タイムス」外交記者ハ日米條約ノ廢棄ハ全ク倫敦ノ意表ニ出テタルモノナリ英國ハ獨自ノ行動ハ執リ居ルモ東京會談ノ進捗振等ハ充分米佛政府ニ通報シ居ル次第ナリ他方米國ハ再三日本政府ニ嚴重警告シ來レルモ條約廢棄ノ通告ハ日本政府ニ取り「シヨツク」タリシナルヘシ此ノ種通商交渉ハ國際間ノ友好關係ヲ律スルモノナレハ如何ニ日本軍力條約ノ精神ヲ蹂躪シ居ルカハ明瞭ナルヘシ右日米條約締結ノ後一箇月ニシテ現行日英條約締

結セラレ一九三五年ニハ附屬協約ノ締結ヲ見タリト取り様ニ依リテハ意味アリ氣ノ註釋ヲ附加セリ

二、同「ガーデイアン」外交記者ハ米國ノ條約廢棄ハ全ク寢耳ニ水ニシテ英國政府ハ今ニ至ル迄右決定ニ付何等ノ通知ヲ受ケタルコトナキ有様ナリ極東ノ危機ヲ通シ米國政府ハ英國ノ措置ニ付常ニ通報ヲ受ケ居ルニ米國ノ決定カ當方ニ於テ豫知出來サリシハ不幸ナリ豫メ承知シ得タルニ於テハ天津及東京ニ於テ更ニ斷乎タル政策ヲ執ルコト可能ナリシナラン

然レトモ右米國ノ決定ハ北海及地中海艦隊ヨリ一隻ノ戰鬪艦ヲモ極東ニ割愛シ難キ現狀ニ鑑ミ絶望ト見ラレ居タル情勢ヲ救フニ役立ツヘシ英國側ハ日英通商條約ハ廢棄セストノ決定ニ達シ居タルモノナルカ米國ノ決定ニ依リ英國側ノ態度カ再考セラルヘキヤ否ヤハ未タ明カナラスト報ス

三、同日外務省ハ聲明ヲ發表シ「日本條約廢棄決定ノ時期ハ米國政府ニ於テ突如決定シ英國政府ニ於テ一驚ヲ喫シタリト云フハ必スシモ當ラス右ハ極東ニ於ケル英米ノ政策カ緊密ナルナル^(マツ)平行線ニ沿ヒ居ルコトヲ示スモノナリ英

國ハ米國ノ態度ヲ充分了解シ米國モ亦英國ノ態度ヲ同様了解シ居レリ尤モ英米双方ニ於テ相互ヲ「コミット」スルカ如キコトハ爲シタルコトナク今後モスルコトハ爲サルヘシ尙日英間ニハ一九一一年締結ノ通商協定現存スル處或半面ニ於テハ米國今回ノ措置ヨリ自然英國トシテモ極東權益擁護ノ爲ニ斯カル方法モ執リ得ヘシト考ヘ居ル向アリ政府ニ於テハ斯カル措置ニ依リ東京會談ノ成功ヲ妨害スル意嚮ナキモ同様措置カ權益保護ヲ確實ナラシムル見地ヨリ必要ト認メラルルニ至ラハ右モ考慮セラルヘシ」トノ趣旨ヲ述ヘ居レリ

四、廿七日附「テレグラフ」上海特電(「タイムス」特電モ同様)ハ日米通商條約廢棄ヲ以テ重慶筋ハ英國ノ態度軟化ノ際米國カ敢然強硬決意ヲ示シタルハ重大ナル道德的効果アリトテ非常ニ歡迎シ居ル旨ヲ報ス

在歐各大使、米、壽府ニ暗送セリ

~~~~~

1369

昭和14年 7月28日

在ニューヨーク若杉總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告の背景などに關す

## る經濟界の觀測報告

ニューヨーク 7月28日後發  
本 省 7月29日後着

### 第二八二號

日米通商條約廢棄通告ニ對スル當方面ノ影響及今後ノ對策<sup>(1)</sup>ニ付本日當地主立チタル本邦銀行及商社支店長等ト會合ノ上各方面ノ情報及感想ヲ持寄り綜合スル所ニ依レハ本日迄ノ所ニテハ未タ左シタル實質的ノ影響ヲ見サルモ各新聞ノ論調モ舉ツテ國務省ノ措置ニ贊意ヲ表シ一般民心ニ對シ爾來鬱積セル國民多數ノ反日的感情ヲ國務省カ如實ニ裏書セルヤノ感ヲ與ヘ中ニハ寧口痛快事ト爲ス者鮮カラス少クトモ從來中立法修正案又ハ對日輸出禁止案等強硬ニ反對セル<sup>(孤)</sup>孤立主義論者モ追ニ沈黙ヲ守リテ差當リ形勢ヲ傍觀スル有様(尤モ政客中今後ノ事態ヲ憂慮スル向ナキニアラサルモ)ナルカ然リトテ何人モ政府ノ眞意何レニ在リヤ捕捉シ兼ネ將來ノ見込モ五里夢中<sup>(霧)</sup>ノ有様ニテ唯取引關係筋ヨリ今後ノ註文ニ付日米間無條約トナリタル場合ヲ顧慮シ種々ノ質問ヲ爲シ來ル程度ナルカ現ニ右通告發表セラレタル昨日ノ市場ハ我公債一弗三十仙乃至二弗方下落、生絲約二十「ポイ

ント」下落シ本日ニ至リ更ニ五十仙乃至一弗八分五下落  
(天津事件ノ際ニ比シ下落程度少シ)シタルカ

右通知ノ動機ニ付テハ國內輿論ノ反日的傾向及上下兩院内  
ノ昨今ノ態度ニ鑑ミ内政的ニモ政府トシテ此ノ際何等カノ  
強硬措置ヲ講スルヲ有利トスルト同時ニ更ニ夫以上ニ日本  
ノ對支行動殊ニ最近續出スル對米人關係事項及日英會談等  
ノ傾向ニ照ラシ到底一片ノ外交文書又ハ警告ニテハ效果ナ  
シト見極メ戰爭ニ至ラサル程度ノ斷乎タル措置ヲ執リ一面  
日本ノ反省ヲ求ムルト同時ニ今後日本ノ出方ニ依リテハ愈  
對日輸出禁止ノ手ヲ打ツニ差支ナキ用意ヲ固メタルモノト  
觀察シ居リ結局通告滿期六箇月間ニ於ケル國內及國際情勢  
殊ニ日本ノ對支行動ニ依リ最後ノ策ヲ講セントスルモノノ  
如ク其ノ間ハ形勢ヲ注視スルノ外ナシトノ意見ニ一致シ居  
ル處日米人共右ノ如ク突發セシメタル近因ハ主トシテ最近  
續發セル在支米人ニ對スル日本兵ノ毆打虐待事項カ誇大ニ  
報告セラレ一般政策論ヨリモ寧口人道的感情ニ過敏ナル米  
國民ノ感情ヲ刺戟セルニ因ルモノト爲スニ一致シ居レリ此  
ノ點ハ本邦ニ於テ或ハ理解セラレ難キ程剗切ナル影響ヲ與  
ヘ居レリ右ノ次第二テ當地本邦商社等ニ於テハ萬一無條約

國トナルカ如キ場合ニ付鮮カラス憂慮シ居ルニ付來週當地  
日本人商業會議所ニ於テハ之カ對策ニ付協議ノ筈  
米ニ暗送セリ

1370

昭和14年7月28日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告の今後の展開に關  
する米國紙の觀測報道報告

ワシントン 7月28日後發  
本 省 7月29日後着

第七二一號

<sup>(1)</sup> 日米通商條約破棄ニ關スル二十八日主要各紙ノ華府通信振  
左ノ通り

一、新條約締結問題ニ關シテハ

國務長官ノ言明ノ如ク今後六箇月間ニ於ケル事態ノ成行  
如何ニ懸ル次第ニシテ政府ハ目下ノ所日本ハ勿論ノコト  
支那及英國等ヘノ反響議會及新聞ニ現レタル國內輿論ノ  
動向ヲ注視シ居ル情勢ニシテ情報一層多ク集マル迄ハ改  
訂交渉ニ對スル態度ハ決定セラレサルヘシ(紐育「タイ

二、<sup>(2)</sup>

廢棄通告ニ對スル國內反響トシテハ

議會ニ於テハ「ピットマン、ウォルター、デヨージ」、  
「クロード、ペツパー」、「シヤーマン、ミントン」、「ト

ムス」及「ボルチモア、サン」ト見ラレ居ルモ改訂交渉ハ所詮日本政府ノ政策ニ變更ヲ見サル限り實現困難ニシテ却テ對日武器禁輸論強マラン（華府「ポスト」）トナシ居ル一方（「ピットマン」）ハ米國今次ノ措置ハ極東ニ於ケル米國權益ヲ維持セントスル從來ノ政策ヨリ一步タリトモ退カサル決意ヲ日本ニ警告セルモノナリト解シ居リ來年一月議會再開ノ上ハ直ニ上院ハ對日武器禁輸案ヲ審議スヘシト述ヘ又（二）大藏當局ハ日本商品ニ對スル相殺關稅賦課及日本ヨリノ金銀買上停止方ニ付研究中ナリトノコトヨリ見ルモ米國當局ハ日本ニ對シ強硬態度ヲ執ラントシツツアルヲ以テ新條約締結ノ可能性ハ著シク減殺セラレタリ（華府「イーブンング、スター」）尙國務長官ハ日本ト新條約ヲ締結スル前ニ極東ニ於ケル事態ニ關シ満足スヘキ政治的解決力爲サレサルヘカラサルコトヲ仄メカシ（紐育「ヘラルド、トリビュン」）條約失効迄ノ六箇月間ニ之カ實現ニ努力スヘシト言ヘリ（「モニター」）

ム、コネリー」等ハ舉ツテ政府ノ行動ニ贊意ヲ表シ「ルウイス、シユエレンバツハ」ノ如キハ廢棄ヲ以テ充分トセス即時禁輸ヲ爲スヘシト爲シ居リ「ボラー」亦同意見ニシテ（紐育「タイムス」）「ピットマン」ハ一國（日本）カ一條約（九箇國條約）ノ要求スル友好關係ヲ遵守シ居ラサルニ拘ラス米國カ他條約ニ依ル友好的條件ヲ履行スルコトヲ得スト要言シ居レリ（紐育「ヘラルド、トリビュン」）

三、日米ノ蒙ムルヘキ打撃ニ關シテハ日本ノ受クル不利益ハ米ノ夫レヨリ大ナルヘシトハ各紙トモ略一致セル所ナルモ日本カ大規模ニ報復ヲ試ミルニ於テハ支那ニ於ケル米國權益ヲ實質的ニ脅シ得ルモ日本ハ經濟的ニハ甚タ弱勢ニシテ米國ニ取リテ日本及支那市場ハ重要ナルモ日本ノ米國ヨリノ軍需品及外國爲替ノ獲得竝ニ貴金屬ノ賣却ノ必要ハ殆ト其ノ死活問題ナリ（「モニター」）米國ハ日本ヨリ原料特ニ絹糸ヲ輸入シ居ルモ右ハ他國ヨリ輸入シ得ラルヘク又代用品ヲ以テ間ニ合ハセ得ルニ反シ日本ノ必要トスル軍需品供給市場ハ米國ノミニシテ且日本ハ米國ヨリ石油、棉花、鐵屑ヲ輸入セサルヲ得ス之等軍需品ノ禁

輸ハ支那ニ於ケル日本軍事行動ヲ不可能ナラシムヘシ  
〔華府「イブニング、スター」〕商務省ハ最近日本ノ經濟  
機構ヲ分析シタル報告ヲ公表シタルカ日本ノ最モ意ヲ注  
キ居ル點ハ金ヲ賣却シ支拂力ヲ獲得セントスルニ在リ且  
商務長官ノ得タル結論ニ依レハ日本ニ在リテハ凡ユル產  
業貿易價格決定分配力完全ニ政府統制ノ下ニ在ルヲ以テ  
日本商品ニ相殺關稅ヲ課シ得ヘシトノコトナリ〔ボルチ  
モア、サン〕  
紐育ヘ郵送セリ

1371

昭和14年7月29日

在上海三浦總領事より  
有田外務大臣宛(電報)

### 日米通商航海条約廢棄通告に関する王寵惠の

#### 記者談話について

上海 7月29日後発  
本省 7月29日夜着

第二一三〇號

廿八日重慶發路透電ニ依レハ同日王外交部長ハ外人記者會  
見席上米國政府ニ今次日米條約廢棄ノ決定ヲ齎セルハ日本

軍閥ニ依リ釀成セラレタル東亞ノ紊亂セル情勢ヲ充分考慮  
ニ入レタル結果ナルヘク右ハ米國カ太平洋地域ニ於ケル地  
位ト權威保持ノ希望ヲ表明セルモノニシテ米國カ更ニ一步  
進メ積極的ニシテ確固タル態度ヲ執リ其ノ權力内ニ於テ國  
際的紛糾ヲ防遏シ以テ國際間ノ平和互親及親善ノ恢復ニ努  
メンコトヲ希望スル旨語リタルカ黃琪翔モ右ハ米國ノ侵略  
者ニ對スル計畫的決意ノ表明タルノミナラス米國ノ對英佛  
援助說ヲ立證スルモノナルカ對日屈伏遷延ヲ迫リタル對英  
示威說ハ確カナラス要ハ支那ニ對スル道義的聲援ニシテ極  
東ノ平和擁護ノ第一聲ナル旨同地新聞紙上ニ發表シ居ル趣  
ナリ

北京、天津、南京、漢口ニ轉電シ香港ニ暗送セリ

1372

昭和14年7月29日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 日米通商航海条約廢棄通告に関するバンデン

#### バーグの談話内容報告

ワシントン 7月29日後発  
本省 7月30日後着

## 第七二七號

萬國議員會議出席ノ途中ナル船田、淺沼兩代議士等ハ本官ノ斡旋ニテ二十八日「バンクヘッド」下院議長竝ニ「タイディングス」上院議員二十九日「ガーナー」副大統領竝ニ「バンデンベルグ」上院議員ト會見(宮崎書記官同席)シタルカ「バ」ト會談ノ際談條約廢棄問題ニ觸レ「バ」ハ船田氏ノ質問ニ答ヘ條約ハ存續スル以上ハ締約國ハ飽迄之ヲ守ルヘキモノニシテ條約カ事態ニ適セサルニ至ラハ之ヲ廢棄スルコト然ルヘシ自分カ政府ニ日米通商條約廢棄ヲ勸告スル決議案ヲ提出セル理由モ同様ニシテ同條約ハ既二三十年近くモ前ノモノニテ新時代ニ適セサル節鮮カラス依テ之ヲ廢棄シ新ナル條約ヲ結フコトヲ適當ト認メタルニ外ナラスト述ヘ更ニ日支間ノ紛爭ハ米國ノ關知スル所ニアラサルモ依テ生スル米國權益侵害ノ問題ニハ關心無キ能ハス事變以來權益侵害事件ノ頻發ハ遺憾ナリト述ヘタルニ付船田氏ヨリ日本國民ハ米國ニハ親愛ノ感情ヲ有シ其ノ權益ハ出來得ル限り尊重セント努メ居レルモ何分戰鬪行爲中ノコトトテ時折米國民ニ迷惑ヲ及ホスハ心苦シク思ヒ居ルモ決シテ故意ニ出ツルカ如キコト無ク又事變ノ落着クニ伴ヒ斯ル事件

少クナルコトヲ期待シ居レリト述ヘタルニ「バ」ハ中ニハ避クヘカラサリシ事件モアルヘキモ現地ノ軍人カ故意ニ行ヘリト信スヘキ事件モアリ「パナイ」號事件ノ如キハ一例ナラン尙米人ニ對スル暴行事件モ最近鮮カラサル處右ハ事小ナリト雖モ米人ノ感情ヲ刺戟スルコト甚シ米國民ハ「エモーシヨナル」ノ國民ナレハ些細ノ事件ニテモ一旦其ノ感情ヲ激發スルコトアランカ一夜ニシテ戰爭トナル可能性アリ自分ハ日米間ニ斯ル馬鹿ラシキコトヨリ戰爭ノ起ルコトハ極力避ケタシト念願シ居レリト述ヘタル趣ナリ

「バンクヘッド」モ亦日本ハ米國ノ得意ナル事ハ承知シ居リ舊條約ニ代ル新條約ノ締結ハ望ム所ナルモ茲暫ク日本ノ出方ヲ見ル必要アルヘク米國ハ其ノ權益擁護ノ爲條約ニ依存スル建前ナレハ現存條約ハ是非尊重ヲ希望ス云々ト述ヘタル由ナリ右何等御參考迄

1373

昭和14年7月31日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告に関する國務長官  
の説明振り報告

ワシントン 7月31日後発  
本 省 8月1日前着

第七二五號(大至急)

貴電第三一六號ニ關シ(日米通商條約廢棄ノ件)

本使三十一日「ハル」國務長官ニ會見シ二十七日ノ公文ニ關シ本國政府ノ訓令ニ基キ左ノ點ニ付テノ説明ヲ求メタシト冒頭シテ

第一ニハ公文ニハ米國政府ハ現行條約ニ對シ新ニ考究スルノ途ヲ開ク爲メ廢棄手續ヲ執ル旨述ヘラレ居ル處米國政府ハ新條約締結交渉ノ意嚮ヲ有セラルルヤト質問シタルニ對シ長官ハ二十七日日本件發表ノ際新聞記者ニ述ヘタル如ク(往電第七一八號御參照)右ハ今後ノ發展如何ニ懸ル次第ニシテ目下ノ所夫レ以上ニ申上クルコト能ハス今回ノ公文ハ了解シ易キ慣用語ヲ以テ充充分意味ヲ表ハシ居ルモノト考フルニ付文面ニ依リテ御了解ヲ願フ外ナシト答ヘタルニ付本使ヨリ乍併公文ニハ新ナル考慮ノ途ヲ開ク爲ト稱シ乍ラ交渉ヲ欲スルヤ否ヤニ付テハ何等言及セラルルコトナク且何等新ナル提議ヲモ爲サレ居ラス故ニ日本政府力右ノ如キ疑問ヲ抱クハ當然ナリト思考スト言ヘル處長官ハ米國政府ト

シテハ wait and observe ノ立場ニ在リ要スルニ今後ノ發展如何ニ懸ル次第ナリトノ趣旨ヲ繰返スノミナリシニ付本使ヨリ重ネテ然ラハ此ノ際米國政府トシテハ目下交渉開始ノ意思アリヤ否ヤヲ闡明ニスルカ或ハ何等カ具體的提議ヲ爲スコトヲ得サル立場ニ在リト了解シテ可ナリヤト言ヘルニ對シ長官ハ又要スルニ目下ノ所此ノ問題ニ付何等確言シ得サル次第ナリト答ヘタリ

次テ第二ニ公文ニハ廢棄決定ニ付テ他ノ考慮トシテ新時代ノ要求ニ應ジテ米國ノ利益ヲ一層保護増進スル爲ト言フコト記述セラレ居ル處米國政府力現行條約ヲ以テ米國ノ利益ノ保護増進ノ目的達成ニ不充分ナリト爲ス理由ヲ承知シタルト尋ネタル處長官ハ米國政府トシテハ從來屢日本側ニ對シ公文ノ交換、懇談等ヲ盡シ來レルニ付米國側ノ意ノ存スル所ハ詳ニ了解セラレタルモノト考フル次第ニシテ遂ニ今日ノ段階ニ到達スルノ已ムナカリシコトモ既ニ日本政府ニテ諒察セラレ居ルモノト存スト述ヘタルニ對シ本使ハ乍併右公文ニハ現行條約ヲ以テシテハ充分目的ヲ達成シ得スト米國政府ニ於テ解シ居ルヤニ看取セラルルニ付御尋スル次第ナリト繰返シタル處長官ハ只今ノ點ニ付テモ米國政府力

從來屢述ヘタル所ニ依リ充分御諒察ノコトト考フト答ヘ

第三ニ公文ニハ現行條約中ニハ新ナル考慮ヲ要スル條項ヲ含ムト爲サレ居ル處右ハ如何ナル條項ヲ指スモノナリヤト問ヘルニ對シ長官ハ今ハ斯ル問題ニ付御話スヘキ點ニ達シ居ラス夫等ノ點ハ今後ノ發展ニ依リ日米間ニ一層友好的空氣ノ出來タル後ニ御話シ得ルコトト考フト答ヘ

次ニ貴大使限リノ「コンメント」モアラハ欣シテ聽キタシト言ヘルニ付本使ハ訓令ニ基カス自分一己ノ觀測トシテ御話スル次第ナルカ自分ハ日米友好關係増進ノ爲ニハ多年深キ關心ヲ有シ着任以來モ此ノ趣旨ニテ努力シ來レルニ拘ラス今回普通ノ外交慣例ニ反シテ何等ノ豫告乃至豫備の話合モナク突然廢棄通告ニ接シタルハ自分ノ甚タ遺憾トスル所ナリト述ヘタルニ對シ長官ハ貴大使ノ日米關係好轉ノ爲示サレタル深キ關心及御努力ハ米國側ニ於テモ充分承知シ居ル所ナルカ今日ノ如キ事態ニ立到レル事情ニ付テハ既ニ御了解相成リ居ルコトト存スト言ヘルニ付

本使<sup>(3)</sup>ハ米國政府今次ノ措置ニ付テハ餘リ突然ナリシ爲日本政府及國民ノ意外ニ感シ居ル模様ナルニ付米國政府ノ意嚮及輿論ノ向フ所ヲ正確ニ本國政府ニ傳フルコトハ本使ノ義

務ナリト考ヘ居ル所ナルニ付腹藏ナク御話致度ク過般來上院ニ於テ「ヴァンデンバーグ」決議案審議セラレ居ルモ其ノ狀況カ今次ノ急遽ノ決定ニ關聯スル所アリヤト問ヘルニ對シ長官ハ今回ノ措置ハ米國政府ニ於テ豫テ考慮シ居タル次第ナリト答ヘタルニ付本使ハ乍併上院ノ外交委員會ノ決定前ニ政府力急遽今次ノ措置ヲ執ラレタルコトハ意外トスル所ナリト述ヘタル處長官ハ右關聯性ニ付之以上觸ルルヲ避ケ此ノ點ハ過日新聞記者ニ言ヘル如ク何等申上ケ得ス今後兩國關係カ好轉シテ貴大使トノ間ニ一層腹藏ナク御話シ得ル機會ノ到來スルヲ願フモノナリト答ヘタリ本使ヨリ最後ニ新聞報道ニ依レハ米國政府ハ更ニ他ノ對日經濟措置ヲ考慮シ居レリトノコトナルカ此ノ點承知シタシト言ヘルニ對シ長官ハ自分ハ本問題ニ付テハ何等承知シ居ラスト明確ニ言明セリ

以上ヲ以テ會見ヲ終リタル次第ナルカ要スルニ米國政府ハ今迄支那事變ニ關聯シテ公文其ノ他口頭ニ依リ屢政府ノ意見ヲ日本側ニ表示シタルニ拘ラス米國側ノ希望スル如キ結果ヲ得サリシニ依リ最モ有效ナル手段ト言フ意味合ニテ兎モ角廢棄通告ヲ爲スニ決定セルモノニシテ此ノ際新交渉ニ



入ルヤ否ヤハ今後ノ發展ニ俟ツノ態度ヲ堅持シ暫ク成行ヲ  
靜觀セントスルニ外ナラストノ印象ヲ得タリ  
英ヘ轉電シ英ヨリ在歐各大使ニ轉電セシメ在米各館ヘ適當  
轉報セリ

1374

昭和14年7月31日  
在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

### 日米通商航海条約廢棄通告の背景に関する観

#### 測続報

ワシントン 7月31日後発  
本 省 8月1日後着

第七三八號(極秘)

<sup>(1)</sup> 往電第七三六號ニ關シ

卅一日ノ本使國務長官會見ニ依リ米國今次ノ措置ニ對スル  
本使從來ノ觀測(往電第七〇八號及往電第七一四號冒頭參  
照)ハ大體「コンファーム」セラレタリト思考スル處其ノ  
後ノ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ左記事情カ米國政府ノ決意ヲ  
固ムルニ與リテ力アリタルヤニ觀察セラル

「前比律賓高等辨務官「マクナット」ハ歸米後大統領ニ對

シ對日強硬政策ヲ採ラサルヘカラサルコトヲ進言シタル  
形跡アル處「マ」ハ政府部内ノ極東通ト目サレ且次期大  
統領候補ノ名乗ヲ舉ケ(往電第六二五號參照)政界ニモ  
追々勢力ヲ築キツツアル關係等モアリ政府ノ對日強硬政  
策ヲ決意スル上ニ相當與ツテ力アリタルモノト察セラル  
二、更ニ米國政府カ急遽スル決定ヲ爲セル事情ニ付テハ議會  
ニ於テ中立法修正案及對日禁輸案カ審議停止トナレル際  
共和黨ノ有力ナル大統領候補者ト目サレ居ル「バンデン  
バーグ」ヨリ日米通商條約廢棄案(往電第六七八號)出テ  
民主、共和兩黨ノ有力ナル支持アリ而モ輿論モ大體之ヲ  
支持スル空氣ナリ

右案成立後ナルニ於テハ徒ニ「バ」ニ名ヲ成サシムル形  
トナリ民主黨ノ立場ヲ不利ナラシムヘキニ鑑ミ是等ノ事  
情ヲ考慮シ議會ニ對スル行政部ノ「リーダーシップ」ヲ  
示スト共ニ輿論ノ向フ所ニ投合セントシ大統領及「ハ  
ル」長官等ニ於テ機先ヲ制シタルモノト思ハル

三、又一方天津問題日英會談ニ於テ英國カ日本ノ主張ニ屈シ  
交戰權類似ノ自由行動ヲ認ムルニ至レリト報セラレタル  
爲支那側ハ勿論「デモクラシー」國家ニ不利ナル影響ヲ

及ホシ延イテハ米國權益ニ打撃ヲ與フル惧アリト爲シ此ノ際米國ノ對極東方針ハ變ル所ナシトノ態度ヲ示スコト必要ト考フルニ至レルモノト思ハル

尙廢棄通告問題ハ戰爭ニ至ラスシテ而モ有效ナル手段トシテ米國政府カ夙ニ密ニ考慮シ居タルモノナルヘキモ右發表ノ兩三日前ヨリ之ヲ斷行スヘキヤ否ヤヲ緊急且極秘裡ニ協議シタルモノト覺シク其ノ頃「ウエルズ」國務次官、「セイヤー」次官補ハ白亞館ニ出入シ通告實行ノ當日午前長官ハ大統領ト談合ヲ爲セル事實ニ鑑ミ本件ニ付テハ國務省側モ積極的ニ之ニ參畫シタルモノト思考セラ

ル  
以上冒頭往電補足旁

英及在米各領事(「ホノルル」ヲ含ム)、馬尼刺へ轉電セリ  
英ヨリ在歐洲各大使へ轉電アリタシ

1375

昭和14年8月1日  
在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告に對する米國新聞  
および議會の反響報告

第七四七號

ワシントン 8月1日後發  
本 省 8月2日後着

日米通商條約廢棄ノ今日迄ノ反響ヲ要約スルニ

(一)新聞方面ニテハ「ハースト」系ヲ除キ殆ト一齊ニ之ヲ支持シ在支米國權益擁護ニ關スル決意ヲ示シ日本ノ行動抑制ヲ窺ヒタル政治的意味ヲ含ミ將來行フコトアルヘキ「エンバーゴ」ノ道ヲ開キタルモノトナセリ而シテ新條約乃至暫定協定締結ハ向フ六箇月間ノ情勢ニ依ルモノトナスモノ大部分ヲ占メ日米通商ヲ重視シ新條約ノ必要ヲ主張スルモノハ極ク少數ニ過キス

(二)上下兩院ニ在リテハ民、共兩黨共大部分今回ノ措置ニ贊成ナルモノノ如ク少クトモ反對ヲ言明セル者ハ「ランデーン」上院議員一名ニ過キス所謂孤立論者モ鳴リヲ鎮メ「ボラー」ノ如キ本件ハ既決ノ問題ニシテ論議ハ無駄ナリト爲セリ

(三)反日親支團體ハ大イニ勢ヲ得タル模様ナリ新聞投書欄ニ現ハルル寄書ハ贊成論多ク反對論ハ當業者筋ニ於テ行政部ノ措置ヲ非難スル向アリ且投書等ニモ間々之ヲ見受ク

ル程度ナリ

英、在米各領事、馬尼刺へ轉電セリ

~~~~~

1376

昭和14年8月2日

在上海三浦總領事より
有田外務大臣宛(電報)

天津租界封鎖問題をめぐる英國の対日態度豹
変が米國による廃棄通告の引き金となつたと
の米國財界人の見解報告

上海 8月2日後発

本省 8月2日夜着

第二一五八號(極秘、部外極秘)

米國⁽¹⁾ノ通商條約廢棄通告ニ關シ一日當地海軍囑託愛内重太郎(四月十三日附機密第二二一八號往信參照)カ豫テ密接ナル聯絡ヲ有スル「スタンダード」石油會社支店副社長「ターナー」ヨリノ聞込トシテ館員ニ内話セル所御參考迄左ノ通り

「ス」社上海支店ニ於テハ本件ニ關聯シ米本國ノ對日態度如何ニ依リテハ同社トシテモ日本ノ勢力圈内ニ在ル極東ヨリ總退却セサルヘカラサル羽目ニ陥ルヘキ危機アリ今後ノ

事業方針決定上重大ナル關係ヲ有スルニ付大統領始メ官邊筋ノ眞意確メノ上至急通報アリタキ旨本社宛強硬意見ヲ打電セルニ對シ三十一日午後詳細ナル回電上海ニ到着セルカ右ニ依レハ今回ノ舉ハ(イ)從來英國カ米國ヲ引込ミ共同シテ日本ニ當ルヘク頻リニ米側ニ勸懸ケ來リタル經緯アリ又最近東京會談開始直前東京米大使館ヨリ英國ハ從來ノ極東政策二百八十度ノ轉換ヲ爲ス筈ナル旨ノ報告アリタルヲ以テ米本國ヨリ右事實ヲ英國側ニ「コンファーム」セル際英國ハ二年前ノ極東政策ヲ毫モ變更スル意圖ナキ旨言明セル事實アリタルニ拘ラス突如米國ヲ出シ拔キタルヲ以テ

從來⁽²⁾ノ親英派迄英ノ態度ニ憤慨シ今回ノ舉ニ出テタルモノニシテ即チ米國ハ之ニ依リ東京會談ニ對シ何等責任ヲ取ラス其ノ權益カ侵害セラレサル限り極東問題ニ關與セストノ態度ヲ明カニシ以テ英國ノ態度豹變ニ對スル抗議ト爲セルモノナルカ(ロ)又一面之ニ依リ支那ニ於ケル反米空氣ノ警戒ヲ爲セルモノニシテ米國ハ東京會談ノ結果必然ニ起ルヘキ支那人ノ排英運動ノ卷添ヲ豫防セントセルモノナルカ(ハ)更ニ「ル」大統領ノ國內ニ對スル政治的「ジエスチュアー」モ多分ニ含マレ居ルモノナリトノ趣旨ナリシ由ナリ尙當地

米國側ニ於テハ今回ノ舉ニ依リ困ルモノハ結局米國ト共同シテ日本ニ當ラントセル英國ニシテ日本側トシテハ何等實際上ノ苦痛ナキノミナス寧ロ右ニ依リ舊條約ヲ破棄シ極東ノ新事態ニ則セル新條約締結ノ機會ヲ得タルモノト言ヒ得ヘキヲ以テ來ルヘキ新條約締結迄能フ限り日米ノ友好關係ヲ持續スル爲日本側ニ於テ此ノ際特ニ冷靜ナル態度ヲ持シ排米の言論ヲ慎ミ米國權益ノ擁護等ニ付テモ一層留意セラレンコトヲ希望シ居レル由ナリ

尙本件ハ當地海軍側ニテモ既ニ東京ニ電報濟ノ由ニ付本件特ニ出所部外極祕ノ取計請フ

1377

昭和14年8月3日

在サンフランシスコ佐藤總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告に関する米國西海岸の反響について

サンフランシスコ 8月3日後發

本省 8月4日後着

第一三二號

往電第一二八號ニ關シ

今次通告ニ關シ當地方諸新聞カ「ハースト」系紙ヲ除キ右ハ對日「エンバーガー」ノ實施ヲ容易ナラシメ米國ノ極東政策ヲ自由強化スルト共ニ日本ニ對スル有效ナル警告トナルヘシトナシ大體ニ於テ政府支持ノ態度ニ出テタルハ既報ノ通りニシテ右ハ當國ノ對日惡感情カ最近表面ノ平靜化ニ拘ラス依然根強キモノアルヲ思ハシムル處一方本通告ノ當方面實業界ヘノ反響ヲ見ルニ一般ニ表面平靜ヲ裝ヒ居ルモ對日貿易業者等ハ内心相當先行ヲ危惧シ居ル模様ニテ既ニ商業會議所等ヨリ微溫の乍ラ二、三反對的批評ヲ紙上ニ發表セシメ居リ又羅府其ノ他ヨリモ同様實業界方面ノ關心ヲ傳ヘタル報道(七月三十一日羅府發同盟御參照)アリ何レモ本通告ノ政治的特質ニ觸ルルコトナク(一)西部沿岸諸港力貿易上竝ニ一般經濟上極東貿易ニ依存スル所鮮カラサルコト(二)現在米國對日輸出ノ大宗タル石油、棉花、鐵銅屑、銅、鉛、肥料、木材等ハ西部諸港ヨリ大量ニ積出サレ居ルノミナラス右各港ニ於ケル對日輸出ノ總輸出額ニ對スル割合モ相當大ナルコト(三)萬一次期議會ニ於テ廣汎ナル對日軍需資材禁輸案等通過スルカ如キコトアラハ右ハ自ラ對支對滿貿易ニモ支障ヲ來シ其ノ結果太平洋諸港ノ被ル打擊ハ鮮少ナ

ラサルコト等(客年中桑港及羅府ノ對日輸出ハ合計約七千萬弗ニシテ其ノ兩港總輸出ニ對スル割合ハ桑港二割、羅府三割餘ニ上リ又石油ノ如キ過去半箇年ニ於テ加州全產額ノ十一「パーセント」ハ日本ニ輸出セラレ居ル由)ヲ指摘シテ一般ノ注意ヲ促サント努メ居リ曩ニ本通告ノ趣旨ニ賛成セル諸紙ノ論評中ニモ弗々同様ノ關心ヲ匂ハセ居ルモノナキニアラサルモ今迄ノ所總シテ一般ニ對スル氣兼ノ外政府ノ眞意捕捉乃至將來ノ見透困難ナル爲突進ミタル反對意見等ハ成ルヘク之ヲ避ケントスルノ傾アリ

1378

昭和14年8月8日
在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

米國は日本の東亞新秩序構想を承認する意思
はなく日本の改心なくば報復措置もありうる
との上院外交委員長談話報道報告

ワシントン 8月8日前発
本省 8月8日後着

第七八一號

六日「ビットマン」上院外交委員長ハ新聞記者ニ對シ米國民保護問題ヲ中心トスル日米間ノ紛争ニ關スル政府ノ措置ハ確固不動ニシテ明カニ米國ハ日本ノ所謂東亞ノ新秩序ヲ承認スルノ意思ナキヲ示シタルカ若シ日本ニシテ其ノ態度ヲ改メサレハ議會亦大統領ニ報復措置ヲ執ルノ權能ヲ賦與スヘシ但シ吾人ハ勿論日本カ冷靜ニ思慮シ米國民ノ權利ヲ尊重スルニ至ランコトヲ希望ストノ「インターヴュー」ヲ與ヘタル趣ナリ

尙「ユー、ピー」ハ右報道ト共ニ大統領ハ歐洲ニ戦争起ラハ臨時議會ヲ召集スヘキコトハ確實ナルカ華府官邊ニテハ大統領ハ重大危機生シタルノミニテモ議會ヲ召集シ其ノ戰爭迴避方法ナリト信スル立法ヲナサントスヘシト見居ル旨報シタリ

1379

昭和14年8月15日
在サンフランシスコ佐藤總領事より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約が失効した場合の経済的影響に関する概括的推測報告

サンフランシスコ 8月15日後発
本 省 8月16日後着

第一三六號(極秘)

在米大使發本官宛電報合第一三〇號ニ關シ

日米通商條約失效後兩國ニ及ホスヘキ影響ハ一二米國側今
後ノ出方如何ニ懸ルコト言フ迄モナク從テ今日各種ノ問題
ニ亘リ的確ナル臆測ヲ下スコト素ヨリ至難ナルカ今次通告
ノ一動機トモ目サレ居ル對日軍需資材禁輸問題ニ對シテハ
當國民ノ間ニ之ヲ支持セントスルノ傾向相當昂マリ居ルヤ
ニ看取セラレ當地方新聞ノ如キモ最近敢テ之ニ反對セサル
ノ態度ニ出テ居ルモノ多ク實業界方面ニ於テモ之等ノ傾向
ニ鑑ミ未タ正面ヨリ反對ノ聲ヲ揚ケ得サル實情ニ在ルハ注
目スヘク其ノ他當方面ニ於テ差當リ無條約狀態發生ノ場合
我方ニ及ホスコトアルヘキ影響トシテ考ヘラルルハ

(一)邦品ニ對スル關稅増徴

(二)本邦船舶ニ對スル差別的取扱

(三)邦人ノ入國、居住、營業等ニ關スル不安

等ナルカ試ミニ以上ノ諸點ニ關シ當方面邦人商社、銀行代
表其ノ他ノ意見ヲモ徴シ今日迄ノ推移ニ於テ極メテ概括的

推測ヲ下セハ左ノ如シ

(一)⁽²⁾對日輸出入制限乃至禁止

客年中當港經由主要對日輸出品(括弧内輸出量單位千噸)

ハ石油類(一一八五)、棉花(二三)、鐵礦屑(三九)、鉛(二

八)、特殊鐵礦(二六)、工業用鹽(五)、肥料(三)、牛皮

(三)等ニシテ内石油及鉛ハ全米對日輸入ノ九割以上當港

及他ノ太平洋沿岸諸港ヨリ積出サレ棉花及屑鐵モ亦最近

其ノ太平洋岸積出量著増シ居ルカ石油、屑鐵、鉛等(銅

ハ太平洋岸ニテハ主トシテ「タコマ」ヨリ積出サル)ハ

本邦トシテ米國ニ依存スル所ナルハ言フ迄モナク殊ニ米

國產石油ハ品質優良ニシテ可燃性高キ航空用油ノ如キ從

來殆ト米國品ノミニ依存シ居リタル實情ニモアリ萬一米

國ニ於テ之等商品ニ迄禁輸ヲ行フカ如キコトアラハ我方

物資補給上ニモ影響アルヘシ又第一次「ピットマン」案

ハ邦品ノ輸入竝ニ爲替及「クレヂット」ニ迄制限ヲ加ヘ

ントセル處之等ハ理論上ハ兎モ角米國現行制度上現在以

上果シテ幾何ノ制限ヲ加ヘ得ル餘地アルヤ疑問ナルモ邦

品輸入上少クトモ條約廢棄ノ齎ス心理の不安ニ依リ取引

上ノ障害ハ起リ得ヘシ尙當港經由輸入ノ主ナルモノハ綿

布、綿製品、植物油、油粕、魚類罐詰、「ワイシユミール」、陶磁器、茶、生糸等ヲ除ク我方代表の對米輸出品ニシテ一部商品ヲ除キ多クハ米國品ト競争の立場ニアルコト御承知ノ通りナリ

(一)³⁾關稅增徴

關稅ニ付テハ當地限り特殊ノ問題ナキ處綿布其ノ他ニ對スル政府補助金問題ノ如キ直接條約ノ存否ニハ關係ナキモ此ノ際當業者側ハ相當其ノ成行ヲ懸念シ居レリ尙米國側互惠協定稅率ニ均霑シ居ル邦品ノ當港輸入額ハ現在年二十六、七萬弗見當ト看做サル

(二)船舶ニ對スル差別的取扱

船舶ニ付テモ當港限りノ特殊事情存セス但シ太平洋ニ於テハ米國船ハ其ノ數僅少ナルヲ以テ萬一米國側ニテ何等差別的待遇ニ出テタル場合我方力之ト對抗上不利ナル地位ニ立ツヘキハ言フ迄モナシ

(四)邦人ノ入國、居住、營業等ノ不安

當館管内在留邦人總數(五萬)ノ内農業關係約六割、國內商業關係約三割強ヲ占メ貿易關係者ハ僅ニ其ノ一分強ニ過キサル處邦人ニ對シ加ヘラルコトアルヘキ利權上ノ

壓迫乃至間接ノ影響ハ別トシテ貿易關係者ヲ除ク一般邦人ニハ格別ノ壓迫ヲ加ヘ得ル余地ナカルヘシ尤モ貿易關係ノ新規入國ニ付テハ相當懸念シ居ル向アリ又當州々會ニハ今尙外國人法及土地法ノ修正等排日法案提出セラレ居ルモ在留邦人ノ基礎既ニ相當安定シ居ルノミナラス夫等法案ノ對策ニハ從來條約ヨリモ寧ロ合衆國法及州法ヲ楯ニ戰ヒ居リ條約上ノ保障ハ近年殆ト問題トナリ居ラス

(五)⁴⁾米人側ヘノ反響

日米貿易關係米人側ノ態度ヲ綜合スルニ未タ纏マリタル意見ナシ大體ニ於テ政府今後ノ出方ヲ注視セントスルノ態度ニ出テ居ルカ政府トシテモ一概ニ極端ナル措置ニハ出テサルヘシトナス者多シ尙加州ニ於テハ石油ハ近年過剩生産ニ惱ミ居リ日本ヘノ輸出(加州全產額ノ十一、二%ニ當ル)杜絕セハ差當リ關係會社ノ採算上ニモ大ナル影響アルヘク又本邦加州棉買付高ハ近年著増シ昨年ノ如キ全產額ノ七、八割ハ本邦ニ積出サレ居リ屑鐵ノ買付量亦大ニシテ日本ヘノ積出停止セバ市價ノ動搖ハ免レサルヘク何レモ當業者ニハ相當ノ痛手ト言フヘク既ニ加州ニ本據ヲ有スル石油會社筋ニテハ先行ヲ懸念シ議會方面ニ

若干手ヲ入レ居ル向モアル由ニテ因ニ客年中桑港對日輸出額ハ夫々二千三百萬弗及五百三十五萬弗ニシテ輸出ニアリテハ桑港總輸出額(一億三千三百萬弗)ノ約一割七分ヲ占メ居レリ

米へ轉電シ在米各領事へ暗送セリ

1380

昭和14年8月19日
在英國重光大使より
有田外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約廢棄通告は國際情勢を見据えた米國政府の對日措置であり今後米國の態度は益々硬化するとの予測について

第九六〇號

ロンドン 8月19日後発
本省 8月20日前着

貴電合第一八七五號ニ關シ(日米通商條約廢棄經緯ニ關スル件)

英(佛)ノ積極政策確立ニ關シ米國力其ノ推進力トナリ居ルハ既ニ屢報ノ通りナルカ獨逸ノ「チエツコ」合併以來ノ危機ニ於テ英國ノ波蘭等保障政策ノ確立後「ルーズベルト」

カ四月十五日ノ不侵略ノ提議ヲ獨逸ニ對シテ行ヒタルト同時ニ米國艦隊ノ太平洋歸航ヲ命シタルハ何レモ歐洲政局ニ於テ獨(伊)ニ對スル關係ト共ニ常ニ東亞ニ於ケル日本關係ヲ考量シ居ルコトヲ示スモノナリ其ノ後モ英佛米間ニハ堂々獨伊ニ對スル歐洲ノ政局ニ關聯シテ直接對日關係ヲ考慮シ居ルハ言フヲ俟タス(對蘇交渉モ同様)今回ノ米國ノ對日條約廢棄ノ處置ハ其ノ國內狀況ヨリ見ルモ且又歐洲及世界ノ政局ニ對スル英(佛)米共通ノ關係ヨリ見ルモ深刻ナルモノアルヲ認メラレ米國ノ態度ハ益々硬化スルモノナルコトヲ豫見スルノ要アル様感ス

米へ轉電セリ

1381

昭和14年8月29日
在米國堀内大使より
有田外務大臣宛(電報)

新通商条約の締結交渉開始には在華米國權益の尊重を日本側が實際的措置で示す必要があると帰国中のグルー大使内話について

ワシントン 8月29日後発
本省 8月30日後着

第八八七號(極秘)

二十九日「グルー」大使ト會談ノ際同大使ハ本使ニ對シ獨蘇不侵略條約ノ成立ニ依リテ生シタル新事態ハ日米關係ヲ好轉ニ導ク上ニ却テ好都合ナルヘシト言ヘルニ付本使ヨリ日本ハ今ヤ新タナル立場ニ於テ國際政局ニ對處スルコトトナリタルニ付日米關係モ此ノ際何トカ打開ヲ圖リタキモノナルカ米國政府カ條約廢棄問題ノ善後措置ニ付「ノンコミタル」ノ態度ヲ執リ居ルコトハ遺憾ナリト應酬シタル處「グ」ハ御話ノ如ク米國政府ハ新條約締結ノ交渉ニ關シ未タ意嚮ヲ明カニセス若シ今後事態益々惡化シ行クニ於テハ或ハ對日「エンバ―ゴ―」ニ迄進ムコトトナルヤモ知レサルニ付成ルヘク速ニ右交渉ヲ始め得ルカ如キ空氣ヲ作ルコト何ヨリモ急務ナルカ夫レニハ先ツ第一ニ支那ニ於テ日本側ハ(イ)空襲ニ因ル米人財産ノ被害ヲ避ケ(ロ)米人ニ對スル各種ノ事故發生ヲ防キ(ハ)米人通商上ノ利益ヲ尊重シ例ヘハ揚子江航行ノ如キモ一部開放スルカ日本側取扱振ノ改善ヲ事實ニ示スコト必要ナリ斯クスレハ米國側ノ對日感情モ自ラ好轉シ條約商議開始ノ機運ニ向フヲ得ヘシト述ヘ又新内閣ニ於テ日米親善ノ方針ヲ聲明セラルルコトハ勿論有益ナル

ヘキモ言葉ヨリモ事實コソ眞ニ效果アルヘク尙米國ハ對支

問題ニ付常ニ獨自ノ立場ヲ執リ來レルモ日本ノ對英關係調整ハ自ラ米國側ニ好影響アルヘシト語レリ

尙同大使ハ九月中旬再ヒ來華シ充分米國政府ノ意嚮ヲモ吞込ミタル上九(月)二十五日桑港發ノ龍田丸ニテ歸任シ日米關係ノ爲最善ノ努力ヲ爲シタキ積リナリト附言セリ
英ヘ轉電シ紐育ヘ暗送セリ
英ヨリ在歐各大使ヘ轉電アリタシ



1382

昭和14年8月30日

在米國堀内大使ヨリ
阿部外務大臣宛(電報)

日米通商航海條約廢棄通告および對日武器禁輸に関する米國世論調査の結果について

ワシントン 8月30日後發

本 省 8月31日前着

第八九〇號

米國輿論研究所ハ

一、米政府ニ依ル日米通商條約廢棄通告ニ贊成スルヤ

二、右條約失效後米ハ對日武器輸出ヲ禁止スヘキ

ノ二點ニ付全國四千五百萬ノ選舉有權者ヲ代表スル様各州
 毎二人選ヲ行ヒ其ノ意見ヲ徴シタル結果質問ヲ受ケタルモ
 ノノ八分ノ一ハ確固タル意見ヲ有セサリシニ依リ之ヲ控除
 シ第一問賛成八十一%、第二問禁止賛成八十二%ニシテ右
 黨派別ハ賛成民主黨八十一%、共和黨八十二%、少數黨七
 十九%ナル趣ナリ
 紐育ヘ郵送セリ



1383

昭和14年9月19日

在米国堀内大使より
 阿部外務大臣宛(電報)

日米通商航海条約の廢棄決議案を提出した理 由に関するバンデンバーグの内話報告

ワシントン 9月19日後発

本 省 9月20日前着

第一一二七號(極秘)

十九日郷カ「バンデンバーグ」ト面談ノ際日米通商條約破
 棄ニ關スル決議案ハ如何ナル趣旨ニテ提出サレタルモノナ
 リヤト問ヒタル處「バ」ハ新事態ニ適合スル様改訂スル目
 的ニ出テタルモノナリト言ヘルニ付郷ヨリ乍併現政府ハ廢

棄通告ニ依リ日本ニ反省ヲ促スト共ニ英ノ對日讓歩ヲ牽制
 セントシタルモノト觀測スル向多シト言ヘルニ「バ」ハ或
 ハ政府側ニ於テ右様ノ意味合ヲ付加ヘタルヤモ知レサルモ
 自分提案ノ趣旨ハ只今述ヘタル通りナリト言ヘルニ付郷ヨ
 リ新事態トハ如何ナルモノヲ意味スルヤト尋ネタルニ
 「バ」ハ例ヘハ米カ未タ滿洲國ヲ承認シ居ラサル關係等ノ
 如シト(マ)郷ハ「バ」ニ於テ滿洲國承認ニ異存無キヤノ印象
 ヲ得タル趣ナリト言ヒ何レニセヨ現條約ノ失效前ニ新條
 約ノ成立スルコトカ必要ナリ此ノ際日本側トシテハ米國ハ
 如何ナル基礎ニ於テ新條約ヲ締結セントスルモノナリヤト
 米政府及國民ニ向ツテ呼ビ掛ケルコト適當ト考フ其ノ場合
 ニハ自分ハ意見ヲ發表スル積リナリト述ヘ自分ハ日米關係
 ヲ改善セネハナラヌト言フ意見ニテ結局日英米三國力提携
 スヘキモノナリト考ヘ居レリ尤モ今日迄日本カ支那ニ於テ
 行ヒ來レル事ハ賛成シ得サル所ニシテ此ノ點ハ遺憾ナリト
 述ヘタル趣ナリ尙「バ」ハ今回ノ滿蒙國境ニ於ケル停戰協
 定ヲ重視シ頻リニ日蘇關係ノ將來ニ付尋ネタルニ付郷ハ滿
 蒙間ノ戰鬪ハ昨年ノ張鼓峰事件ト同様片寄りタル地方ニテ
 行ハレ双方之ヲ本格的戰爭ニ導ク考ハ無カリシモノニシテ

今回衝突ノ擴大ヲ避ケ國境方面ノ平靜ヲ回復センカ爲ニ停戰ヲ協定シタルニ過キス近ク日蘇間ニ不侵略協定ノ締結ヲ見ルヘシ等ノ說ハ全クノ臆測ナリト言ヘルニ「バ」ハ依然日蘇關係ノ今後ニ相當ノ懸念ヲ有スル様見受ケラレタル趣ナリ

1384

昭和14年10月26日
在サンフランシスコ佐藤總領事より
野村外務大臣宛(電報)

日米通商航海條約廢棄問題などに関する太平
洋沿岸領事會議の意見報告

サンフランシスコ 10月26日後發
本 省 10月27日後着

第一八一號

貴電第一一六號ニ關シ(太平洋沿岸領事會議ニ關スル件)

二十三日ヨリ三日間會議ヲ開催セルカ本省諮問事項中條約廢棄問題米國海軍ノ對日態度等ニ關スル各領事ノ一致セル意見要旨左ノ如シ

尙其ノ他ノ事項ト共ニ詳細郵報スヘキモ不取敢

一、一般問題

イ、條約廢棄問題ノ根本ハ我方對華政策ニ對スル不安乃至不滿ニ發出スルモノナルヲ以テ我方不動ノ大本ニ關スル誤解是正ヲ第一義トスヘキコト勿論ナルカ同時ニ迂遠ノ如クナルモ一層第三國特ニ米國トノ摩擦ヲ避クルト共ニ此ノ上共可能ナル範圍ニ於テ米國側ノ希望ヲ容レ或程度迄具體的ニ我方ノ誠意ヲ披瀝シツツ可及の速ニ相手トノ話合ニ入り得ル素地ヲ作ル以外ニ局面打開ノ途ナカルヘク此ノ儘ニテ推移セハ條約改締ハ勿論日米全局ノ國交上ニモ面白カラサル影響ヲ與フルナキヲ保セス右ハ條約失效後ニ於ケル我方對抗策乃至報復ノ手モ薄キ實情ニ鑑ミ一層其ノ感ヲ深クスル次第ニテ右ノ如キ心構ハ假令條約失效ヲ前提トスルモ同様必要ナルヘシ從テ差當リ租界問題其ノ他ニテ米國側ノ誤解ヲ深ムルカ如キ措置ハ成ルヘク差控ハ又殴打事件等些細ノ事ニテ米人ノ神經ヲ刺戟セサルコト賢明ナルカ英米ノ特殊緊密關係ハ到底動カシ得ヘキモノニアラサルヲ以テ第三國權益取扱ニ當リ英米人間ニ區別ヲ設ケ米人ノミ特別扱スルノ不可無意義ナルハ勿論ナリ

尙我方ニ於テ今後米國側不滿是正乃至緩和上何等ノ

「ステツプ」ヲ執リタル場合ニハ支那政情ニ關シ當方ノ知リ置ク要アル新事態(例ヘハ汪ヲ首班トスル新政權樹立運動ノ進展狀況等)發生ノ場合ニハ隨時ニ當方ニ御通報相成ルト共ニ右等ニ關シ米人啓發上有利ナルモノハ成ルヘク其ノ都度内外新聞通信員ヲ利用シ之ヲ米國側ニ知ラシムルヲ得ハ更ニ好都合ナリ序ナカラ米人牧師ノ人道論ニ基ク歸米談ノ如キモ當國對日輿論ニ鮮カラサル禍ヲ成シ來レル事實ニ顧ミ彼等ノ接待ニハ此ノ上共注意スルノ要アリ

ロ、從來州會關係各種排日法案ハ殆ト條約ノ保障等ヲ顧慮スル所ナク無差別ニ提出セラレ又之カ對策ニモ斯ル保障ハ寧ロ最惡ノ場合ノ切札トナシ夫々地方の事情ニ基キ對處シ居リ且二世モ概ネ十年ニ達シ居ルノミナラス次期州會召集期モ明後年ナルヲ以テ差當リ緊急ノ問題トハナリ居ラス

ハ、(一)條約承認^(商人カ)入國問題(二)外國船舶ニ依ル輸入貨物ニ對スル附加税(三)船舶ニ對スル課税(噸税及燈臺税)等差當リ考慮スヘキ主ナル問題ナルカ(一)ニ付テハ一部關係商社中條約失效ニ先チ社員ノ入替乃至増員方計畫中ノモ

ノアル趣ナルモ此ノ際俄ニ多數ノ入替等ヲ行ヒ相手側ヲ刺戟スルコトハ面白カラサルモ米國側ノ出方モ豫測シ難キ次第ニ付

此ノ種商社側ノ自發的措施ハ敢テ「デイスカレジ」スルノ要ナカルヘク(二)及(三)ハ(一)同様條約失效後直ニ起リ得ヘキ問題ニモアリ愈失效必至ト認メラルルニ至ラハ在米大使發閣下宛公信機密第四八七號附屬末段ノ通り本邦側ニテ相互ニ差別的待遇ヲ爲ササル旨何等カノ方法ニテ豫メ米國側ニ通告スルノ措置ニ出テラルルコトモ一考ヲ要スヘシ

二、各地共多少事情ヲ異ニスルモ目下可能ナル範圍ニ於テ米人商議、米人商社其ノ他ヲ通シ適宜中央ニ勸キ掛クルニ務メ居リ同時ニ邦人當業者ヨリモ取引先米人等ト種々聯絡ヲ取ラシメ居ルカ差向キ商議ヲ通スルコト最モ效果的ト存セラルルニ付一般啓發ト併セ此ノ方面ノ工作ニ主力ヲ注キ居レリ

ホ、海軍側出先機關トノ接觸ニ依ル印象乃至各種情報ヲ綜合シ最近米國海軍側ノ態度著シク硬化セリトハ斷シ難シ、尤モ今次米國艦隊ノ一部分布哇派遣其ノ他ハ多

少我方ニ對スル示威の意味モ含マルル様解セラレサル
ニアラサルニ付此ノ上共注視ノ要アルモ昨今太平洋岸
ニ於ケル米海軍發動活潑化シ居ルハ本年歐洲開戰前後
ヨリ着手セラレタル中央ノ一般的國防充實策ニ依ルモ
ノ多ク之等全般ノ情報ヲ以テ必スシモ對日「ヂエスチ
ユア」トノミ速斷シ得サルモノト思考ス

米へ轉電シ在米各領事（「ホノルル」ヲ含ム）へ暗送セリ

